

WACATE

ワカテ マガジン

Magazine

Vol.27

✿ご挨拶✿

WACATE-Magazine をご覧の皆様、こんにちは。
WACATE-Magazine 編集部です。

少し曇り気味でしたが、JaSST' 11 Niigata に行
って参りました！



JaSST' 11 Niigata は情報交換会が終わった後に
これだけの参加者の皆さんで記念撮影！

この写真だけでも、
熱いシンポジウムであったことが伺えますね。

さあ、JaSST' 11 Niigata の魅力掲載の vol.27、
はじまるよー！

✿お品書き✿

【特集】

JaSST' 11 Niigata Report!
～新潟から始めよう～

【特集】

JaSST' 11 Tokyo Report!
Once more!

【コラム】

にいがた飲んだくれツアー！

【コラム】

帰ってきたプレ zen 奮闘記

【リレーコラム】

ワカテにきく。

【リレーコラム】

Software Test Topics

【雑談すべしやる】

てすバナ語るっcha!

【連載】

ミュージカルに恋して

【リレーコラム】

WACATE-Blog 出張所

【連載】

源太郎のソフトウェアテスト占い

【おとがき】

✿WACATE Topics✿

JaSST' 11 Niigata のメディアスポンサーに
WACATE-Magazine 編集部！

WACATE 2011 夏の実施が決定！
日時と場所・開催概要が公開になりました！
<http://wacate.jp/2011/summer/gaiyo.html>

JaSST '11 Niigata Report

～新潟から始めよう～

◆◆◆JaSST'11 Niigata◆◆◆

2011/02/18[fri] 万代島ビル11F 13:00～



さぁやって来ました新潟は朱鷺メッセ！
なんとこの地、新潟で初めてのプチ JaSST が行われるとのことで、われわれ WACATE-Magazine 編集部が潜入取材してきましたよ！！



どーん！なんて近代的なビルゾング！

これが新潟初上陸となった JaSST の開催地、万代島ビルである！

上に上がると受付はなんと JaSST'11 Tokyo 実行委員長の長谷川さんとわれらが智美塾・塾長という豪華な顔ぶれでしたw
押忍！半日お世話になります！

中には秋山さんやにしさんの顔も。。。
そうそうたる顔ぶれですね。

そして JaSST'11 Niigata 実行委員長、さんちゃんこと第3バイオリンさんの顔にも緊張が走ります。

というわけで、JaSST'11 Niigata 始まりです！

◆◆オープニング

司会：三浦 元氏



「最初は40名でしたが、現在実は50名いらしています。予想以上の参加をしていただき、ありがとうございます。」
という挨拶から始まった JaSST'11 Niigata。
続いては実行委員長の挨拶です。

◆実行委員長：池田 加奈子氏

JaSST は東京を初めとして全国色々行われていますが、新潟で初めて、そして日本海側での開催は初めてとなります。
当初は人が集まるかどうか、新潟の皆様が興味を持っていただけるかがとても心配でしたが、8割の方が新潟の方です。
新潟は大人しい方が多い印象だったので、募集を締め切った後の追加をするくらい沢山の方にご来場いただき、とても嬉しく思っています。

テーマは「個人/組織の体質改善」です。
皆さんはさまざまな業務において、色々と改善に取り組まれているとは思いますが、改善のヒントを持ち帰ったり、たくさんの方に交流を持っていただける場になればと思います。

また、共催をしてくださった NICO 様、有難うございました。
それでは JaSST'11 Niigata をお楽しみください。

と、実際はもう少し緊張されていましたが、きっちり挨拶をされていました。

挨拶が終わると、三浦さんによって壇上に紹介されたのは、**我らがにしさん**。にし節が新潟の大地に炸裂します。

◆◆テストを軸としたソフトウェア品質の改善 電気通信大学 西 康晴氏



身を切られるような温度と思っていましたが、思ったよりも温かかったです。
もしかしたら、皆さんの熱意が、天気にも反映されたのかも知れません。

◆自己紹介

私たちはどこにいくべきか？などをテーマに取り組んでいます。
大学以外にも色々な活動をしています。
TEF, ASTER, JaSST, JSTQB...人材育成のためのスキル標準、智美塾など。
一にしさんの幅広い活動の一部が紹介されました。

JaSST は ASTER の活動の一環で、今までは割と広い地域を対象にしてきました。
今回の新潟のようにスポットでやるのは初めてです。

しかしそれには理由があって、仕事は東京から地域に流れていくのですが
これには2つの考え方があります。

- ・ **仕事が東京に集中しているという考え方。**
- ・ **東京では仕事が処理しきれないことを地域に助けてもらっているという考え方。**

地域の皆さんの技術力を上げないと、日本の技術力が下がっていく。
皆さんが日本を支えているのです。
皆さんは東京の「部品」ではなく、東京を支える「基礎」です。
皆さんが支えているのです。それを認識して今日は帰ってください。

一にしさんがものすごく熱い気持ちを持ってきたことが挨拶から伺えます。

札幌は勉強会から試験勉強をはじめ、そして自分たちが困っていることを出し合い、札幌で「スーパークレー方式」を生み出しました。
それは札幌から全国に広めていった。

今日のメインは私の話ではなく、一つは W モデルの実践で、もうひとつは USDM と DRBFM の話があります。実は新潟はレベルが高いと感じた。
密度の濃い、レベルの高い技術の話です。

今日は皆さんに、新潟の他の会社ではこんなことをやっている、ということを知っていただく。
そしてそれをどんどん議論していく。
月1回くらいの勉強会をすると、悩み相談をするようになります。勉強会には最初は ASTER の人間を新潟に送ることもできます。
各社で色々な工夫を本当はされています。
その工夫は、他の会社からすると目から鱗が出るような取り組みであったりします。
そういうことを続けると、新潟の技術力が上がっていきます。
そうして技術力を上げていくと、他の地域が「目指せ新潟」になるかもしれません。
そういうことを続けると、どんどん日本の技術力が上がっていく。

JaSST 新潟は、新潟の人に来ていただくのが目的です。

今日の発表は、そういった活動の「キックオフ」と思っていたきたい。
新潟地域と、他の地域が切磋琢磨していただきたい。
20名以上の希望者がいれば、JSTQB の試験を開催することもできます。

三浦さんは SESSAME の人です。SESSAME は変な組織です(笑)

自社の中で教育カリキュラムを作る体力が無いところにセミナーのテキストを作って、無料で配るという変わったことをしています。

仕様書を作ってそれを提供したりもしています。その仕様書を使って、若手に実践をさせることもできます。

そういったネタはいくらでもあります。

SQiP の活動の紹介

SQuBOK (Software Quality Body Of Knowledge) は最近、中国でも翻訳されています。

中国はソフトウェアの技術力がどんどん上がっています。

中国の人たちはソフトを買うようになっている。中国の人でもソフトの品質を求めるようになっていく。

生産性を上げることで、iPod の裏面のように世界中から日本海に買いに来る、ということが出来る。

ソフトウェアでもそうなりたいと考えている。

今日はスーツの方が多いです。

会社の方向性に対して影響力を持つ人と思えます。

ソフトウェア開発がどういう方向に行くとよいか、ということをお話します。

そのコンセプトは「新潟が日本をリードしていく」というコンセプトです。

一会場の空気の温度が少し上がったような気がしました。

うちの会社のソフトの品質は高い！と言える方？

→1人くらい

正直困っている！という方？

→たくさん。

まあ、どこの地域でもこんなもんです。

携帯電話、カーナビは品質がひどかった。ITS などにより突然品質 10 倍にしろ、とか言われる。

ある日、品質を 10 倍にしろ、何年、いくらかかる？と言われる。答えがすぐ出せる人？

→いない。

それが、問題なんです。世の中は早い。

社会のスピードについていけないことが問題です。

では、2 倍なら？2 倍ならできると言う人？

→いない。

これも難しいですよ。でも、これだと食っていけないんです。

◆損害リスク

・低品質に起因する手戻り多発による失注・利益損失

・低品質に起因するメンタルトラブルなどによる人材損失。

→このままいくと、メンタルトラブル率が 20%以上になる会社が出てくる。

10%だと、まだ回復できる。20%になると、プロジェクトの中で回復させなければならない。

実は研究室ではずっとメンタルトラブルの研究をしている。

だが、これという対策は無い。予防しかない。技術者としてのやりがいがない、牢獄のような現場になってしまう。

◆訴訟リスク

・ソフトウェアの低品質などにより訴訟が相次いでいる。

→訴訟の場で説明ができるような腕の良いエンジニアを貼り付けなければならない。

・訴訟になると裁判費用や対応人員など多額のコストがかかり、信用も大きく低下する可能性がある

◆メディアリスク

・サービス事業者の責任が全面に出るべきケースにも関わらず、受託ソフトウェア企業名が報道されるケースが相次いでいる。

→ソフトウェアはハードウェアの部品と違う。

ハードウェアの責任は製造責任者が追う。

ソフトウェアは何故か「どこの会社で作った？」と言われる。

風評被害も発生する。

受託のソフトウェア組織はどうすべきか？

組み込みソフトウェアはハードウェアの責任者がソフトはここやってね。という形でやっている。

これは社内でもほぼ受託。

こういったことを言うと、その会社の責任者は

「低価格化戦略」「高技術力戦略」と言い出す。

◆低価格化戦略

ソフトウェアテストの低価格の最低ラインは低い。技術の無い人が集まる。
有象無象の人間が来る。Word も Excel も触ったことも無い人間が来る。

低価格化・大規模化をすると薄利多売のために高コスト営業が必要となる。
通常の規模の会社だと耐えられない。不況になると、真っ先に切られる。

より大きな企業の下請けになりやすく、価格競争で疲弊しやすい。
→この戦略を取ると、もっと安い国に負ける。

となると、オンリーワンと言いだす。

◆高技術力戦略

一方、高額で働く人間もいる。評判が立つと、優れたエンジニアを目当てに転職してくる。

私の知っているスーパーエンジニアは栃木にいる。そのスーパーエンジニアがいると人間が集まってくる。

初期コストは高いが、調達コストや営業・謝罪コストが下がります。
高スキル人財を活用するためのオープンなマネジメントスタイルが必要となる。
「アイツならいいんだけど、示しが見つからない」という話にもなる。

経営陣の度量があるうちは、そこそこの規模で高利益率を保持できる。

しかし「アイツとなんでオレの給料が同じなんだ」と不満を持ち始める。
そうすると、どんどん離れていってしまう。
舵取りが難しい。それをどう解決するか。

◆高カイゼン戦略

そんなに実力が高いワケでもない人間を入れる。
周りから情報を吸収する人間を集め、周りを巻き込んで成長をし続ける。
客先に入れても、客先を巻き込んで改善をし続ける。

勉強会はコストがかからない。社外から講師を呼ぶと、お金がかかる。

「なんでこういうバグが出たの？」
「客先の仕様書が…」
「んじゃ、オマエならその仕様書どうする？」
…とって情報を集める。

納期どおりモノを納めるのは当然。
コンサルティングをする。こまごま改善をする。

どんどん良くしてくれるので、お客様は離れなくなります。

- ・バグを作れば働く時間が長くなる。
→時間を延ばす。※あまり良くないマインド。
- ・通常の8掛けの速度で作ります。その代わり金額は同じでお願いします。
→お客様の懐は痛まず、速度をメリットとして提供する。
→これも高カイゼンのひとつ。

皆が全員、ちょっとずつ改善していく。自分の仕事をちょっと改良する。

本当にやる気の無い人間を切っていけば実現可能。

ただ、常に悪さの情報を共有し、原因を分析し、カイゼンし、未然防止につなげ、目先の利益にとられず、品質を高め組織力を向上するという**ブレない組織カルチャーやマネジメントスタイルをもつことが必要**になる。

高カイゼンによる品質向上はロバストな経営戦略である。

◆現場の悩み

現場は困っている。一生懸命開発しているが、一向によくならない。
製品やシステムを開発することに迫られ、自分達の技術力が高まっているとは感じられない。
様々なプラクティスを導入しているが、全体として良くなっている実感が無い。

現場は「これでいいのか？」と思いながら続けることになる。
「だって仕方ないだろ。」となる。

みんなちぐはぐという印象になる。

受託根性が出てくると、何かに従っていればよいと考える。
品質とコスト・納期のトレードオフと考えている組織はQCDの表面しか見ていない。**Qが下がる本質を見るのが大切。**

品質を上げると、手戻りが下がるはず。よって納期は縮まる。
安直な分割統治をすると、テストをしっかりとやっ
てるヤツらがいるから、ウチらは楽しよう、とな
る。

◆高改善を支えるのは「フォロワーシップ」

フォロワーシップは「部下力」。
これは教育が必要であり、勝手に芽生えるもの
ではない。

コードの中身を読んで、「こんなコードだからバ
グが出やすい。だからこう書くと良い！」と言
って初めてカイゼンができる。

改善というのは、改善活動して、と言われたモノ
をやることではない。

- ・欧米的な品質の考え方：開発結果の質
→分割統治
- ・日本的な品質の考え方：総合的な仕事の質
→一丸となって

品質は結果のパラメータではない。

カイゼンしないソフトウェア組織のイメージと
カイゼンし続けるソフトウェア組織のイメージ。
「クオリティバタフライモデル」

…この当たりで例によって時間が足りなくなっ
てまいりました。
でも、スライドに書いてあることは後で読めるよ
うにしているので読んでください、とにしさんは
言いました。

あとは流して説明をしましたが、途中で大切なと
ころは説明を追加していました。
レビューアビリティ(レビューしやすい文書を作
る)など。

Wモデルの説明においては

「テストは無限、はウソです。上流でちゃんと作
ればテストは減らせる。」

「開発者は考える範囲を狭めることで考えるス
ピードを上げる」

「自分たちの弱みをリスト化して弱点リストを
作り、フィードバックする」

「モダンなソフトウェアテストを考える」

など、設計がキレイになると見通しがよくなる
ということを強調しました。

**Wモデルの目指すべき姿は「開発者が最も良いや
り方で考える」ことに近づけていくプロセスであ
る、と最後ににしさんは言いました。**

最後に Beiser の「テスト道」を紹介しながら

- ・武士道は、刀を抜かずに心を斬る。
- ・孫子の兵法は戦わずして勝つ。

と言ったのが印象的でした。

◆◆組織としての開発力および品質力向上への 取り組み キャノイメージングシステムズ株式会社 遠藤 良夫氏



部長殿の発表です。組織としての取り組みの話な
どをしますと丁寧なあいさつから始まりました。

このような場を頂いたことを大変嬉しく思いま
す。私のところでも、毎年 JaSST Tokyo に行っ
てもらって、フィードバックをしたりしています。

社長直轄で評価部門が独立している。

※開発の中にあると開発のいいなりになる傾向
があったため。

そうした組織にしたのが数年前だそうです。

◆会社

グループでの品質力 No.1 を品質方針し
品質マニュアルと品質マネジメントシステムを
軸にプロセスを規定化し、組織化した。
ソフトウェアは管理が難しいのでプロセスに着
目し個人能力に依存するため、個人の問題にせず
組織として明確化したうえでプロセスにフィ
ードバックする文化を作った。

◆プロセスの改善

スポンサーとして社長の理解が必要だった。

1つ1つのプロセスを「目的」を明確化すること
で「やらされ感」を排除し、自らプロセスを改善
する人になるようにした。

プロセス改善はコツコツと一歩ずつ。銀の弾丸は
なかった。

◆プロセス連携監査

監査を規程化した。当初はプロジェクト終結後に各工程を監査していたが終わってからやってもフィードバックできるのか疑問という意見もあり、最終的に監査 VS プロジェクトという状況になってしまった。

そもそもは QCD の達成という共通の目的であったはずなのに…ということで色々な工夫をし、今はプロジェクトと並走するようになった。

懸念プロジェクトはプロジェクト推進委員会で会議をし検討をおこなった。
結果、失敗プロジェクトは 17 件→5 件と減少した。

◆Wモデル

組織でやっているが、それでもやはり下流障害はなくなる。
上流工程でテストをどうやるのか、が大事。

- ・開発内評価内容のバラつき
- ・評価肯定との不整合

といった問題を解決するために「テスト方針書」を導入した。

方針・計画・方法・重点評価項目を明文化した。

上流は品質を作り込む
下流では品質を検証する

パイロットプロジェクト前は不具合原因 6 割だったものをパイロットプロジェクト後は不具合原因 4 割に削減。
上流と下流では 1:10 くらいコストがかかる。
トータルで 1 人月くらいは削減ができた。

◆品質管理教育

ソフトと関係ないと思われがちだが品質管理検定 4 級レベルを教育カリキュラムとして組み込んだ。

○キヤノンエッセンス

- ・事業の品質
- ・品質世界一と言ったら本人も世界一の人格を。
- ・受講者は評価部門が多い

○アプローチとしての効果

- ・若年層に効果
 - ・非若年層は
 - と言われても、現実には…
 - 具体的にどうすれば？
- という意見があり、今後の課題である。
しかし、「基本」は伝えられたと認識している。

課題としては偏りがあったこと。

- ・開発部門の参加率
- ・課長以上の受講率

組織として連携しようと取り組んでいます。

ちょうど、組織として品質をどうするかというテーマに取り組んでいる私にはとても参考になる話でした。サラリと会社の紹介をしたように聞こえましたが、実際にはこの組織を構築するまでに大変な努力をなさったと思いました。
新潟、すごいです。

◆Q&A

Q1. 監査で不合格になった時はどうしていますか？

A1. 課題を見つけて皆で解決をするような場として監査を位置づけている。
名前は監査ですが、課題の抽出が中心というイメージです。

Q2. プロセス連携監査について

プロジェクトとの並走のタイミングは？具体的に知りたい。

A2. 進捗を見て、報告をしたりする。

プロジェクトの状況をニコニコマークでわかりやすく

工数の面からもどう逸脱しているのかを社内ポータルに載せるようにしている。

Q3. Wモデルの事例

総バグ数は減りましたか？

A3. はい。障害は減りました。

Q4. 開発から評価を切り離した場合、往々にして仲が悪くなったりしますが、
どう対策されていますか？

A4. これには課長が答えの方がいいでしょうか？
会場にいる課長さんの回答。

「あまり変わっていません。仲良くするにはやっぱり飲みでしょう！」

さすが新潟！米どころ！！

◆◆派生開発でUSDМとDRBFMをミックスして
一気通貫で品質確保する
NECソフト株式会社 酒井 賢氏



「おめさん、なじらね？」

→新潟の方言で「調子はいかがですか？」と思いやる究極のオープンクエスチョンです！
という解説から始まりました。

10年間かけてやって、モノにできたかな、と思っていることを発表させていただきます。
テスターを2年経験した後、プログラマーとして5年、そしてサブリーダーを経て10年ほどプロジェクトのリーダーをしています。
主に派生開発でのプロジェクトを40案件ほど担当したそうです。

2006年当時に12EditionのOSに対して21モジュール構成のソフトを4名で派生開発、という厳しい状況に置かれた。

問題点は多く

- ・デザインレビュー後に要求仕様の不明点/矛盾が判明した
- ・ソースコードのどこを変更するとどこに影響するかがわからない
- ・どうして今の仕様になったのか、経緯がわからない。

※互換性を維持するための譲歩した設計が必要
→要求を仕様化する技術、変更点の抜け漏れ防止
変更の追跡が必要

- ・OSに依存する問題が発生
- ・ハードウェア依存する問題が発生
- ・非機能要件(操作性・性能)が実現できていない
→問題発生 of 未然防止の必要性がある。

上記問題を解決するために以下の4つが求められた。

- 1) 要求の仕様化技術
- 2) 変更点の追跡
- 3) 変更の影響範囲・抜け漏れの防止
- 4) 問題発生 of 未然防止

解決できるのか？と置いていたところで、USDМに出会った。きっかけはメンバーが持ってきたSoftware People。

これで上記1)2)3)の問題は解決できるかも知れない。失敗しないと聞いて(Software Peopleの表紙には「失敗しない派生開発」と銘打たれていた)コレだ！と思い、すぐメンバーの人数分書籍を購入したそうです。

そして4)の課題にはDRBFMが使えるかも知れないと思った。最初にUSDМを取り入れ、後からDRBFMを取り入れた。

1つでも失敗すると並行していたプロジェクトがダメになってしまうため、もうワラにもすがりたいだったそうです。

両方とも、根底には徹底的なレビューがあることがわかった。

◆施策1. USDМ

まずUSDМの「変更要求仕様書」を作成し、現場で見やすいようにひと工夫して作った。

モジュール単位に列を作成し、トレーサビリティマトリクスを作成。

ソースファイル単位では列が多すぎて結局影響が追い切れなかった。

また「理由」がなかなか書けなかった。最初は使ってみて、改善の余地があった。

いくつか現場に合ったルールを作成した。

そして、最終的にはお客様も交えてメンバー全員でレビューを行うこととした。

そして変更要求仕様書が完成するまでは設計に手をつけないようにした。

他にもいくつかルールを徹底した。

すると

・要求の真の理由を把握することで、適切な仕様化ができ、後戻りが無くなった。

・一覧化されていることで、どの派生開発でどの変更が入ったか、がわかるようになった。

・モジュールのマトリクスで、変更に対する各モジュールへの影響がわかるようになり、デグレードがなくなった。

また、思わぬ副産物として

メンバー全員がレビューに参加することにより、自分の作業範囲だけでなく、影響範囲を意識するようになった。

この効果により、**変更要求が稀しくなった。**
また、お客様にもレビューに参加していただくことにより、変更要求の大変さがわかってもらえるようになり、要求自体の不備も予防することができるようになってきた。

◆施策 2. DRBFM

DRBFM は Design Review Based on Failure Mode の略でトヨタの GD3 (Good Discussion/Good Design Review/Good Design) の一翼をなすもの。全員でお客様を交えてレビューするため、変更要求仕様書と親和性が高かった。

一度使ってみたが、本に書かれた通りのフォームを使用したのが逆引きして埋める、といった形骸化が見受けられた。そこでさらに**簡素なフォームにして「心配点シート」と名付けた。**

- ・ 要求事項
- ・ 理由
- ・ 変更するにあたっての心配点
- ・ 心配点を取り除くためにどのような設計をしたか

上記を変更要求仕様書のレビュー時に成果物のレビュー毎に確認するようにした。

すると、**設計段階で検出される問題が増え、後戻りが更に減った。**

副産物が多く、レビューにプラスアルファされるだけなので負担が低いにも関わらず

- ・ 探索的な作業なので、**楽しんでできた。**
- ・ **メンバーのコミュニケーションが活発になった。**
- ・ **ベテランの経験が若手に伝わるようになった。**
- ・ **ナレッジがどんどん溜まっていった。**

最終的には全ての問題を解決できた。

今のメンバーであれば、百戦百勝できるのではないかと思えるようにまでなった。

ただしちゃんと使うにはプロジェクトのサイズの考慮が必要である。

最後に、と新潟の写真スライドを映した酒井さんは熱弁します。

新潟人の特性として、「**備え**」がある。
雪下ろしや皆で駐車場の雪かきをしたりなどの「**助け合いの精神**」がある。

そして、状況に合わせた「**ツール**」もある。
「**品質向上**」は雪かきに似てる。
長い冬でも、必ず春は来ます。

システムやツールや手法はたくさんありますが、ソフトウェア開発は最後は「人」が主役だと思います。

そこには気付き、コミュニケーション、チームワーク、助け合い、「なじらね？」など人にしかできないことが詰まっています。

品質向上は、最終的に「そこ」にあります。

こういった社外での発表は初めてとのことでしたが、とても落ち着いていて素晴らしい発表でした。**こちらの発表も、サラリと発表されていましたが、とても苦勞をされたことがわかる、そんな発表でした。**

自信が持てたからこそ、できることなのだ、と。そういう印象を持ちました。

◆◆パネル/クリニック

品質改善に関するよろず相談

西 康晴氏 三浦 元氏

万代島ビルからは天気の良い日は佐渡が見えます。

基本的な悩みは皆さんが持っています。

会場からの悩みごとをにしさんと三浦さんが答えるコーナー！

まずは三浦さんがアンケートのデータをいくつか用意してくださいました。

JaSST'11 Niigata 品質に関する他社の意識

2010年アンケート結果

問題の重要度を高・中・低で教えてアンケートに
応えていただいた。

客観的な品質基準があいまい

何を品質と考えるかがプロジェクトの中で意識統一されていない

製品系列でのソースコード流用が新規開発製品のソフトを複雑にしている

納期が何より最優先

納期は変更不可能という意識

2007年アンケート結果

ほとんど傾向は変わりません。

試験内容の妥当性確認が不十分である

ソフトウェア担当者は経験が浅く、品質が悪くなる可能性がある

社内の品質基準と客先の品質基準に乖離がある場合、客先の基準に達しているとリリースを要求される

開発側での評価手法に曖昧が多く、出荷後に判明する問題が多い

外注で連絡が取れておらず、モータを渡したにも拘わらず動かしていない、など。

納期が最優先
ナレッジをシェアしたい。

たくさんの悩みを皆さん抱えてらっしゃることがわかりますね。

○会社間のジレンマ

小さい会社なのですがお客様から「こうしてください」と言われるとこちらの規律や決めごとを取り入れづらい。→どのように提案していけばよいか、是非アドバイスいただきたい。

政治的にはデータがやはり必要です。
・証拠をつきつけないと力関係があるときは難しい。

戻りが多いなら、まずはバグ分析。
まずは現状について問題意識を持ってもらう。

お客様が出してきたプロセスをリバースエンジニアリングして、なぜ、その文化になっているのかを正しく理解しないと難しい。
一気にやろうとするよりも、一つ一つ、できるところから。

ある特定の場所のみバグゼロにする、という作戦は「具体的」で「達成感」も出るのでオススメです。

○フォロワーシップの教育

あらゆる場面で「フォロワーシップが無い」と言い続ける。

なぜなぜ分析が上手な組織は「なぜ？」と聞き続ける。中途半端な答えだと「それは答えではない」と言われる。

マネジメントのフォロワーシップを鍛えるためには「私が今、どのようなことを言うと思いますか？」と聞き続ける。

その他、日本の強みとは何か、といったことがディスカッションされました。

◆クロージング



池田実行委員長の「アッと言う間だった！という方？」に声に、ほとんどの方が挙手していました。
これだけ皆さんでテストの話や品質の話をしたことは少なかったのではないのでしょうか？
年1回では勿体ないので、読書会からでもよいので、是非企画しましょう！

さまざまな思いがあったのでしょうか。
最後に涙ながらに「有難うございました」と実行委員長が挨拶を続けます。

「種は蒔きました。私たちと一緒に、花を咲かせてくれる方を募集中です」と語った実行委員長を会場の皆さんが温かい目で見守ります。

温かい拍手は、これからの新潟が熱くなっていく音のように聞こえました。

情報交換会は参加された皆さんのほとんどが参加し、とても活発に名刺交換が行われていました。

皆さんが一生懸命に議論しているのを見て、今日ここから、何かが始まる予感がしました。

-JaSST '11 Tokyo Report-

once more!

みなさんこんにちは^^今年も JaSST 巡りが続いているw
ばんばん@編集部員です。

実は JaSST 前後で体調を崩しておりまして(汗)気がついた
ら Magazine 発行されちゃいましたみたいな状態に・・・orz
ということで今更ながら JaSST'11 Tokyo レポートを書きま
した(汗)

といっても、**聴講レポート**とはちょっと異なります。ひと
つは資料作成のお手伝いをしたテストスキル標準のセッシ
ョン(WACATE における Test. SSF の活用事例)について。も
うひとつは、登壇することとなった**智美塾セッション**につ
いて。以上 2 つのセッションについてのレポートをお届け
します。

ちょこっと中の人の立場でのレポートですが、どちらも団
体の総意ではなく**個人的な立場でのレポート**となっていま
す。あしからず^^

■テストスキル標準 (Test. SSF) の紹介と活用事例

鈴木 三紀夫 氏 / 佐々木 方規 氏 / 石川 俊一 氏 / 辰巳
敬三 氏

まずは、鈴木三紀夫さんより、テスト開発技術のスキル標
準の解説がありました。

JaSST'10 Tokyo で初めて紹介された、テストのスキル標準
「Test. SSF」。今回は**更にブラッシュアップされた開発技術
のスキル標準についての紹介**がありました。詳しくは発表
資料をご覧ください。[JaSST'11 Tokyo のサイト](#)に掲載され
ています。

テスト要求分析、テストアーキテクチャ設計について、特
に時間をかけて解説をしていました。

が、しかし、それでも時間が足りないということ・・・
「テストアーキテクチャ設計につきましては、この後、魁!!
智美塾というセッションで詳しく・・・」おおお・・・智
美塾に投げたっw この一言が、智美塾のセッション聴講
者の増加に貢献?!したのではないかと・・・思っていま
す^^;

鈴木さんのお話にもありましたが、現状では「表計算ソフ
トやワープロソフトが使えるか」「C 言語などのプログラム
経験があるか」といった、テストとは直接関係ない判断基
準が設けられているケースをよく見かけます。また、私が
よく目にする派遣の募集要項についても、テストに関して
は「テスト経験があるか」「テスト設計経験があるか」とい
うように、とても粒度が粗く、適切に判断できるものでは
ないことが多く見受けられます。

Test. SSF によって、適切なスキル判断を行うことで、より
的確な人材配置や教育ができるようになるのではないかと
そうなって欲しいと思っています。

次に、石川さんより、IVIA における Test. SSF の活用事例
(Test. SSF をテーリングした事例)の紹介がありました。

そして!辰巳さんより、WACATE における Test. SSF の活用
事例の紹介がありました。こちらは Test. SSF をそのまま利用
してスキル測定した事例です。WACATE2010 冬の Test. SSF
セッションで皆さんにスキル測定していただいた結果をも
とに、傾向、考察などを発表しました。発表資料は JaSST'11
Tokyo のサイトに掲載されています。

結果の集計は WACATE 実行委員会で行いました。

スキルシートはテスト詳細設計に関するスキル項目で「準
備」「獲得」「分析」「設計」「作成」「検証」という大きく6
つにわかれています。この6項目について4段階評価して
いただいた結果の平均値を出して比較しました。比較した
のは年代(30歳以下/30-35歳/36歳以上)・プロジェクトの
役割(テスト実施者/テストエンジニア/テストマネージャ/
ソフトウェア開発者)・担当業務(製品開発/技術開発/受託
開発/テスト・品質保証/人材派遣)・分野(組込み系/WEB・
オープン系/エンブラ系/パッケージソフト/インフラ・ネッ
トワーク)。母数があまりに少ないものは比較対象から外し
ました。

WACATE2010 冬に参加された方々はそれぞれ背景が異なり、
また、業務内容や役割などの人数の分布状況も均一ではな
いことから、必ずしも一般的な傾向が出ているとは限らな
いかもしれませんが、なんとなく納得できるような傾向が
見受けられる点もありました。たとえば役割別をみると、
「テスト実施者<テストエンジニア<テストマネージャ」と、
経験を要する役割になるにつれ平均値が高くなる
という予想される結果になりました。

また、測定者全員の傾向については、第三階層の各項目に
ついて平均値を出して比較してみました。結果としては、
個人的な感想としては、平均値が低い項目(アクティビテ
ィ)は業務で関わる機会が少ない項目なのではないかと思
います。集計結果を見ると、平均値の低い項目(カバレッジ
に関する項目やテストハーネス設計)については「1」をつ
けている方が多くなっていました。

スキル測定結果についてだけでなく、WACATE や
WACATE-Magazine についてもかなりの時間を割いて紹介し
ていただきました☆ そんなに紹介に時間使っていただい
て大丈夫なのかしら^^;と少々心配するほどで。ええw
なお、このセッションでも WACATE が同人誌発行団体扱いさ
れたとかいう・・・w **だから WACATE の W はワークショップ
なんだってばっ!!**

■魁!!智美塾

テストアーキテクチャという考え方の提案

智美塾 塾長/二号生/一号生/塾生

智美塾では今回「テストアーキテクチャ設計」について、
メタモデルと事例の紹介をしました。

聴講者数は120人くらい?とっていたら、なんと150人
を超え、準備していた配布資料が足りなくなるという事態
に!!んー、やはりTest, SSFセッションが呼び水になった
のかしら?^^;

開始は智美塾長より、セッションの概要、目的について解
説がありました。その後、なぜか照明が暗くなり・・・
BGMとともにナレーションがw

「この物語は、前回のテストでしくじり、大問題を市場流
出させてしまった、崖っぷち新米テストリーダーの苦悩を描
いた物語である・・・」

そして舞台上に駆け上がってきたのは海パン!・・・では
なくw、ポストイットまみれの作業服に重たいバインダー
を抱えた、テストリーダー2年生(役)「コヤ萬」!

最初に寸劇を入れることでアイスブレイクを試みたもの
の・・・

・・・しーん・・・

う、笑いが取れないっ; M 崎先生もびっくりのすべり様だ
よ~;

塾長との掛け合いの後、秋山さんより**テストアーキテク
チャ設計のメタモデル**の解説がありました。

テストアーキテクチャに含まれるものには、どんなもの
があるだろう?具体的なアーキテクチャモデルを考えると十
人十色で共通点が見えにくい、**抽象化して考えることで、
共通点がみえてくるのではないか?**

ということでメタモデルについて検討した結果、どうやら
皆テスト観点として抽出したものを「**テスト対象**」っぽい
ものと「**テスト目的**」っぽいものに分類して掛け合せて
いるようだ、という話になり、掛け合わせたものを「**テ
ストフレーム**」と呼ぶことに。

また、**テストフレーム**をテストレベルやテストタイプなど
で**グループ化**させているらしい、ということで、まとめる
ための「器」として「**テストバスケット**」という概念を設
けました。

なお、用語については、**智美塾ではこのように呼ぶ(このよ
うな解釈で扱う)**という話であり、他で定義されているもの
ではありません。

しかーし・・・メタモデルの紹介だけではピンとこないで
すよね・・・

もーすこし具体例とかないのー?!

そこで、3人の塾生から**Gmail (web メールアプリ)**をテスト
対象とした**テストアーキテクチャ設計**について**具体的な例**
の発表が行われました。ええ(なぜか)私も発表すること
になりました^^;;;

一人目の鈴木貴典さんが発表しようとしたところ塾長から
待ったがかかり・・・「あ、ちょっと待って、えーと、ひと
り5分で!!」

まるでLTじゃないですかあ~(涙)

かくして「5分でいかに説明できるか」に挑戦することにな
ったのでしたw振り返ってみれば、私は5分で説明する
ことにいっぱいいっぱい、本当に伝えるべきことを伝え
られていなかったと思います。時間切れで話さなかったテ
ストアーキテクチャ設計の利点についてはちゃんと自分の
言葉で説明したほうが良かったと思いました。

その後、会場の皆さんを交えて発表者に対して質疑応答や
ディスカッションが行われました。このやりかたはJaSST
のセッションだからというわけではなく、智美塾では毎回、
宿題発表+質疑応答→全体で議論、という流れで進行して
いきます。ただ通常の塾では単なる聴講者はいない(必ず宿
題を提出する義務がある)ということです。

議論のなかで、**テスト目的とテスト対象の区別は?**という
話で盛り上がりました。秋山さんの「**テスト対象は都度変
わるが、テスト目的は使いまわすもの**」という説明は腑に
落ちるところがありましたし、聴講された方からもこの説
明が分かりやすかったという声を聴きました。

また、今回の発表者3人とも**テストアーキテクチャ設計**を
表にまとめていましたが、これはたまたま一緒だっただけ
で「**テストアーキテクチャ設計=表にまとめること**」では
ありません。ということで、にしさんから「こういう表現
のしかたもある」という例が示されました。その図も
[JaSST'11 Tokyoのサイト](#)で資料公開されています。

私個人の発表内容について考えてみると、本当はもっとす
っきりさせることも確かに情報載せることもできるのに、
モデリングの知識や経験が足りないために、未熟な成果物
となっているのだと思っています。いろんなモデルを使っ
て表現してみて、その結果どういう表現方法を適用するか
を決めていくほうが理想なのだと思います。

・・・目下いろいろ考えてはいるのですが、なかなか簡単
には神が降臨しないものですね(涙)

智美塾は何かを教えてもらう場でもなければその場で演習
をする場でもありません。自分で**方法論**を考えたり**議論**
を重ねる中で**磨き上げたり新たなものを生み出す場**です。そ
ういう点では敷居が高いかもしれません。しかし、高度な
知識を持っていなくてもスキルや経験が豊富でなくても参
加できますし、宿題も立派でなくても参加できます(私が参
加できてますので・・・^^;)。今の自分で考えられる**範
囲で自分なりに考えてみる**ことが**大事だ**と思います。解ら
ないことは**解らないとはっきり言っても大丈夫**です(解ら
ないことをそのままにしないという姿勢が大事です)。実は
智美塾では「**ばんちゃんが理解できるかどうか**」がひとつ
のバロメータになっているらしいですよ(えw

また、コヤマンが本当はどんなアーキテクチャ設計を考え
ているかを知りたい方も、次のコヤマンのコスプレ提案を
してみたい方も??!是非♪

「**来たれ!智美塾へ!!**」

書いた人:ばんばん

新潟

飲んだくれツアー！

◆飲んだくれツアーやってきた！！

さてさて。やってきました JaSST 参加恒例の地元の方と行く観光ツアー！

今回は JaSST11Niigata 実行委員長のさんちゃんの案内で豪農の家→月岡温泉飲んだくれツアー！

いやっほい！って事で行って参りました。

早速来ました「豪農の家」。
簡単に言うと昔の農業を生業とする豪族の豪邸です。

いやー。スゲー。農家スゲー。



外にかけられた看板です。「北方文化博物館」！

<http://hoppou-bunka.com/index.html>

受付までの道がコレ。



The 豪☆邸！セレブ感満載です。

そして受付を済ませ、門をくぐると…



どーん！家！（そのまんま）

シルエットだけ見ると普通の民家ですが、大きさが尋常ではありませんw

中もゴージャス。



リアル神棚。窓付きですよ@@；

昔の日本人の家、というカンジで、ふすまのところの高さは若干低いですね。



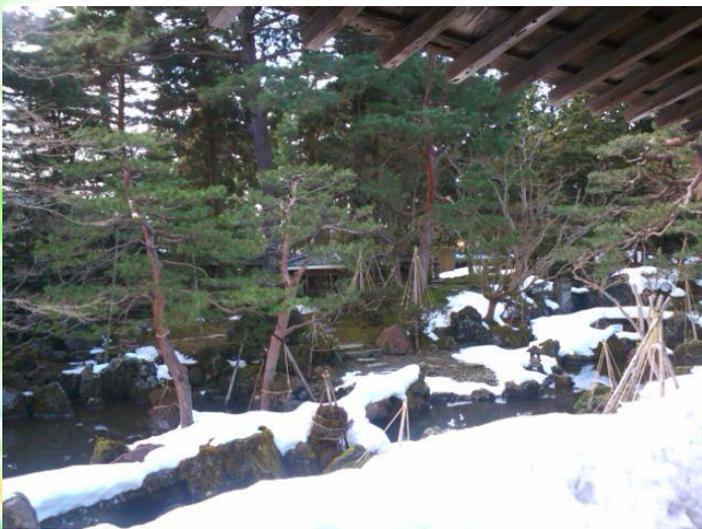
この奥行きの広さ。。
 わかりますか。コレ全部「部屋の中」です。
 なんと当時、屋敷の中には60名程の使用人がいたらしく、毎日米俵1つが消費されたそうです。
 備蓄はなんと2000俵あったとの事でしたので、5年以上過ごせたということです。もの凄い量ですね。。



コレが中庭です。普通サイズではないおうちが3~4棟固まっているような状態です@@；



これがキッチンです。
 一段高くなっていて、床は開閉式になっていて、床下収納ができます！ツボくらいの高さがあります。それにしても広い！



正に日本庭園という趣の、お庭。
 「こんな風景で切腹したい！」と思う僕は正しい日本人だと思います！



ひんべえwwwwww デカイwwwwww
 2Fはギャラリーになっていました^^



部屋の中に囲炉裏があって、ここで足元を温めます。隣にちょうど地元の技術者の方がいらっしゃいまして、ワンセグでのサービスなどについて、少し技術の話をしました^^



外には立派な藤棚が。藤の季節には、上下が藤色の世界になるんですね。



歴史を感じる葺き屋根です。こちらは当時の一般市民のお家です。日本むかしばなしの世界です。馬と一緒に暮らしていたというのがまた凄いですよね。昔は車の代わりに馬だったんですなー。



屋根は中から見るとこんなカンジ。右は「三角亭」という名前の離れです。建物は三角形で、窓は〇の形、畳は菱形と斜なカンジです！見取り図↓



他にも沢山の資料があったりしました。鞍と鐙がお洒落だったり…当時の生活ぶりがかがえます。



さて、豪農の家を発った後は本日の最終目的地である「月岡温泉」に！

そしてランチは…ズドン！「日本海の海の幸！」



旬の鰯がとても美味しかったです^^

そしておなかがふくれた後は本日の目的！
「飲んだくれツアー」の発動です！

◆説明！

- ・お猪口+試飲チケットを500円で購入。
 - ・ツアー登録商店に行って銘柄を指定すると、チケットと引き換えにお猪口一杯注いでもらえる。
- ※お店によって飲める銘柄は違います。

つまり、お猪口を持ったほろ酔い状態の大人がフ
ラフラと店を回る、というめっちゃめっちゃダメな素
敵なツアーなのです！

うへへ。



勿論写真は飲んでいたので撮りそびれましたw
うへへ。

6件ほど回ってすっかり皆さん飲んだくれ。
おみやげにも日本酒！うへへ。



ついつい高めの日酒をお土産に買ってしま
いましたw

そして最後は美人の湯です！



凄く綺麗なエメラルドグリーンのお湯でした。
しかもなんかつるつるする！
これで僕も無駄に美人に！

いやーもー一緒に行った女性陣もより一層美
人になって、ドキドキしました！
…いや、酔っ払ってないですよ？

それから新潟駅に帰り、皆で打ち上げ！



お通しが豪華！
郷土料理ののっぺい汁もいただきました^^



そして昼から酔っぱらったまま至れり尽くせり
な一日でした。

運転のため最後の飲みやさん以外ではお酒をガ
マンしてくれたうえ、初めての実行委員をやって
疲れているにも関わらず、一日中案内をしてくれ
たさんちゃんに大感謝☆

また来ます！新潟！！ 次は酒の陣かな？w

書いた人：日本酒に目覚めたコヤマン

帰ってきたプレゼン奮闘記

◆SQiPによる研究成果の発表会

2月25日(金)、東京の東高円寺ビルにてSQiP(ソフトウェア品質管理研究会)の各分科会による研究の成果発表がありました。私(おたべ)は去年に引き続きプレゼン発表してきましたので、その様子をレポートしていきます。

私の所属する分科会は**第3分科会(レビュー)**で、分科会は欠陥予測と合意形成の2チームに分かれており、私は合意形成チームの発表担当となっていました。思い出せば一年前、同研究会発表にてカレーやスキー等の写真を使ってテスト技法を説明し語り草となった私の発表スタイル(詳しくはMagazine Vol.15を参照)。今年は更にそれを超えなければなりません。

◆プレゼンの準備

冬はスキーシーズン、しかも今年はスキーの準指導員検定**(見事合格しました!)**があり、プレゼン資料作成の時間確保には苦勞しました。

作業内容はこちら

- 1、発表内容の台本をざっと書く
 - 2、研究論文の内容を疑問点が無くなるまで読む
 - 3、台本を矛盾無く理解しやすいように推敲を重ねる
- ※1~3に平行してプレゼン素材の収集と作成

台本作りは初めてで、慣れない作業に疲れたときは第3分科会のマスコットである**ダッキー君**に相談してみました。ダッキー君、癒し効果抜群です。



◆アイスブレイクのネタ集め

プレゼンでは最初の数分で相手の興味を引かないと、伝えたいメッセージがあっても素通りしてしまいます。そのような時に**アイスブレイク**が重要になります。

ただそうは言ってもアイスブレイクのネタは簡単には転がっていません。まず最近の出来事をリストアップすると、その中に**スキーの大転倒**で命拾いしたネタがありました。そこからなぜなぜ分析や発表中のキーワードを関連づけて立派なアイスブレイクに仕上がったときは、我ながら本当に転んでもタダでは起きないなと感心してしまいました。

◆チームのメンバーと事前練習

発表前日、合意形成チームのメンバーと一緒に発表会場にて練習を行いました。メンバーからは「どの説明が分かり

にくいか」を教えてください、**「資料のこの部分は不要じゃない？」**と内心自分でも引っかかっていた点にバツサリ指摘が貰えて、資料を大胆に修正することが出来ました。それに単純にみんなでワイワイやりながらプレゼン資料を磨き上げる作業が楽しかったです。

◆神が降りた瞬間

事前練習が終わり、家の鏡の前で一人黙々とシャドウプレゼンをしていました。そして深夜、決めポーズの確認中に**主査そっくりなプレゼンの神が降りてきました**。その瞬間に「この発表はイケル!」と暗示がかかって不安が全く無くなり、あとで会場の人たちに聞いたところ**「普段とまるで別人」**の顔付きになっていたようです。

◆プレゼン本番 ~ダッキー君と共に登壇~

今回のプレゼンは今まで一番自信を持って進めることが出来たのですが、その理由は2つありました。一つは神が降りてきたこと、もう一つはダッキー君です。登壇時はダッキー君改め**ダッキー部長に同行**してもらい、一人と1羽の掛け合いプレゼンは大成功を収めることが出来ました。

◆プレゼン終了 ~出ない質問~

去年もそうでしたが、何故か私の発表では質問やコメントが出てきません。もっとも茶目っ気を出して質問タイムにて**「質問は私か、「ダッキー部長」をお願いします。」**と笑いを取ったら余計に質問しにくくなったようです。ただ自分自身では矛盾点や疑問点が生まれないうプレゼン資料に推敲を重ねてきたので、言いたいことが伝わった発表になったのではないかと考えています。

◆ベスト・オブ・ザ・プレゼンテーション賞を受賞!

全プレゼン終了後の情報交換会にてベストプレゼンテーション賞を受賞しました! しかも欠陥予測チームは優秀論文賞を受賞したので**分科会メンバー全員が受賞**したことになります。さらに去年の発表を知る方達からも「化けたね」とか「毎回プレゼンが上手くなってる」などと賛辞を頂けて、とても嬉しかったです。



今年度もSQiPでは品質に関する様々な研究が行われて行きます。参加することでスキルや人脈など、**一生モノの財産**を得られるかもしれませんよ。

書いた人: おたべ



著者近影

mayonezudaiou さんからバトンを受け取りました、細谷です。

WACATE には 2010 年に初めて参加させていただきました。内容の濃さはもちろん、実行委員やスピーカーの皆様はもちろん、参加者の方々からもテストに対す

る熱い思いが伝わってきて、とても感動しました。今回は、WACATE に参加される皆さんに伝えたいことを書かせていただきます。

筆者は、ずっとソフトウェアの開発に携わってきました。また、XPJUG 関西というアジャイル開発のコミュニティで活動してきました。そんな筆者ですが、テストにとっても興味を持っています。今回は、テストに興味を持った理由に関わるお話しを書かせていただきます。

皆さんは、eXtreme Programming (以下 XP) をご存じでしょうか？XP は、10 年ほど前に日本に初めて紹介されたアジャイル開発手法で、週 40 時間、TDD、人間を中心に据えた開発などが、多くの開発者の心を捉えました。開発者の心を捉えた XP ですが、残念ながら多くの会社は XP を採用しませんでした。筆者は 2003 年頃に初めて XP で開発を行い、ペアプログラミング、TDD などのプラクティスを実践し、その効果を実感しました。しかし、仕事で携わるプロジェクトのほとんどはウォーターフォールプロセスでアジャイル開発を採用することはできませんでした。しかし、ウォーターフォールプロセスによる開発の多くの場面で XP から学んだことが役に立ちました。XP では、顧客、マネージャ、エンジニアなど開発に関わる人が常に共通の目標に向かうことを重視しています。目標とそれが達成されたときの姿を共有することで、無駄な駆け引きを行うことなく、本質的な部分に集中できるのです。目標が共有できなければ、不安が生じます。例えば、不安な状態で見積もりをしたらどのようなことが起こるのでしょうか？多くのバッファを見積もりに加えることになるでしょう。筆者は XP から学んだ姿勢として「相手の不安を取り除くこと」に注力しました。お互いの不安について話し合い、不安を取り除く（リスクを引き受ける）

ことにより、多くの場合、前に進むことができました。そうした中で築いた信頼関係がとても重要であることを学びました。

実は、テストに興味を持ったもの XP がキッカケでした。XP のプラクティスとして有名な TDD は、テストからのフィードバックに重きを置いた開発手法です。にし先生の W モデルのお話を初めて聞いた際に、筆者は TDD と W モデルは本質的にとても似ていると感じました。W モデルは、テストの視点から、設計へのフィードバックを行い、設計の質を向上させます。この両者に共通しているのは、設計とテストの距離を縮めることが質の向上に繋がるという点です。最近では、テスト技法を設計に取り入れることが大きな関心事です。その話しは長くなるのでここでは書けませんが、たとえ設計でテスト技法を使わなかったとしても、テスト設計のスキルを身につけることは、設計スキルの向上に繋がると確信しています。逆に、設計スキルを身につけることによりテスト設計スキルの向上に繋がるとはなにかと考えています。このように XP は筆者の考え方や行動のルーツである大切な存在です。

WACATE に参加される皆さんは、充実した合宿の中で、色々な技法を学ばれると思います。そして、色々な人と知り合い、語り合うでしょう。中には、学んだことが、すぐに業務で使えないという状況もあるかもしれません。そんな状況であっても、興味を持って学び、身に付けたスキルや考え方は必ず役に立ちます。その状況は、誰も考えていないような、応用を生み出すチャンスかもしれません。

大切なことは、色々な考え方を「自分に関係ない」と思わずに耳を傾けてみることで、そして自分が置かれている状況に当てはめて考えてみることです。

WACATE をはじめとするコミュニティ活動には、沢山の宝物が埋まっています。若手の皆さんが自分にとっての宝物に出会っていただけると嬉しく思います。

Software Test Topics

当番：コヤマン(Magazine 編集部)

ども。コヤマンどえす。

今回はコヤマン当番です！
大変な時期でイベント等は予定が変更されていたりしますが、チェックしてくださいね！

社会のスピードに負けないように、今月もチェキラ！

【資格】第6回 初級ソフトウェア品質技術者資格試験

<http://juse-sqip.jp/jcsqe/index.html>

開催日：2011年5月28日(土)
開催地域：東京、大阪、愛知、福岡(予定)
試験料：10,500円(税込み)
募集期間：2011年2月21日(月)～4月22日(金)15:00(予定)
JCSQE、絶賛申し込み受付中です！！
サイトもリニューアルしています！
SQuBOKをベースにしたソフトウェア品質の勉強をするにも是非チャレンジしてみてくださいね！

【イベント】SQiP研究会ミニシンポジウム ～これからのソフトウェア品質技術者の育成～

<http://www.juse.or.jp/software/301/>

日時：2011年3月23日(水) 13:20～17:45
会場：日科技連 千駄ヶ谷ビル 1号館3階講堂
http://www.juse.or.jp/about/location_map1.html
参加費：無料
募集人数：150名(※定員になり次第、締切)
対象：

以下の項目に一つでも感じている現場のみなさん、管理層のみなさん、ぜひご参加ください！

- ソフトウェアの品質保証を本格的に取り組みたい！
- ソフトウェア開発の現場を活性化させたい！
- ソフトウェアの品質を向上させたい！
- テスト、レビューなどの技法を活用し、職場で実践し効果を上げたい！

SQiPのミニシンポジウムです。
ミニシンポジウムというのは初開催ということです。
秋山さん、細川さん、永田さんとそうそうたるメンバーでお届けするイベントです。
パネルディスカッションもとても魅力的です。

行われるパネルのテーマは
「技術と人と組織を変えるために、我々に何ができるか？」
となっております。

【論文募集】ソフトウェア品質シンポジウム2011

<http://www.juse.or.jp/software/217/>

開催日程：2011年9月7日(水)～9日(金)(予定)

会場：東洋大学・白山キャンパス

論文募集テーマは以下です。

- 要求やシステム開発などに関連した観点
- ソフトウェア開発技術の観点
- マネジメント技術の観点
- 品質管理・テスト技術の観点

(1) スライドのみでも投稿できます：

投稿区分として「経験論文」と「経験発表」の2つを用意しています。

「経験発表」についてはスライドのみで投稿できます。

(いずれもアブストラクトの段階で採録のための査読を行います。)

(2) 論文作成を支援します：

「経験論文」の作成においては、著名な専門家2名以上から、論文をブラッシュ

アップするためのレビューコメントをいただき、それを踏まえて最終原稿

(カメラレディ)を仕上げさせていただきます。

(3) 発表者は特別料金にてご参加いただけます：

発表者は、一般参加費 39,900円、

日科技連賛助会員参加費 37,800円のところ、

特別参加費 5,250円にてご参加いただけます。

※金額はいずれも消費税込みです。

※上記特別参加費は、9月8日(木)～9日(金)の本会議への参加費です。

9/7(水)の併設チュートリアルには別途参加費が必要です。

◆発表「経験論文」「経験発表」申し込み締切

2011年4月28日(木)

アウトプットすることで普段から行っている技術をより整理でき、フィードバックを受けることで成長していきます。
是非、こういった機会を有効に使ってくださいね！

ちなみに、このコーナーでは、書籍やイベントの情報を募集しています。

例えば、「来月勉強会とか OFF 会とか開催するんだけど掲載してくれない？」といったものでも OK です。開催地も、日本全国津々浦々、どこでもかまいません。

情報をお待ちしております m(_)_m

ぽじゃま★パーティー

てすバナ語るっcha

■「そういえば、投稿戦士以外に

WACATE ファンの発信方法ってないよね・・・」

「ないなら創ってしまえばいいじゃない！」

↑ということっ☆

チャットルームを開設することになりましたっ

WACATE-Magazine の新企画として、投稿戦士以外のカタチで読者など WACATE ファンが関われるイベントとかできないかなあ？・・・という案から、チャットで座談会(分科会出張所的なもの)を開催したらいいんじゃないかなあ・・・という話になりました。

だいたい月1回開催で、その都度テーマを決めてみんなで語り合おう！という企画です。チャットの内容は Magazine に掲載します！

■ルールは今のところ以下のとおりだよ！

其の壱：

チャットの内容は WACATE-Magazine に掲載される前提です。したがってログを保存させていただきます。もしオフレコの発言がありましたら、その際に明確にしてください！なお、全部オフレコっていうのは受け付けませんっ！！www

其の貳：

テーマに沿った発言をしよう！（できるだけ・・・）
毎回テーマを決めます。そのテーマから大きく外れないようにご協力願います。
オーナーが沈黙し始めたらそれは脱線復旧のチャンスを狙っていると察しましょうwww

其の参：

悪口や誹謗中傷の類はダメよ！（冗談は、明らかにネタってわかるようにね♪）

其の肆：

対話とか論議を楽しみましょう。ROM だけ、ひたすら語り続ける、といった一方通行にならないように心がけましょう♪

次の開催日時(まあ夜です。パジャマパーティーですからw)、テーマ、申し込み方法はこのコーナーの最後に記載します。

オンラインという特性を生かして、各地のテスト大好きな仲間と繋がりたいと思います。皆様の参加をお待ちしております！！

今回のテーマは、「WACATE 2010 冬感想」「JaSST 東京・新潟への期待」といった案がありましたが、その場で検討した結果「JaSST 東京に期待すること」となりました。チャットルームに訪れた面々に登壇者・発表者が多く、準備段階のこぼれ話やら実現できなかったおバカな企画まで？！伺える場となりました。ふふ～

■第3回♪

本題突入時刻 [21:54:33]

コヤマン：もちろん今日の議題は「JaSST'11 Niigata!」だね^^
第3バイオリン：そうですね、改めてお礼や、その後の話なども。

コヤマン：うんうん^^とはいえ、僕しかまだいないので、インタビュー形式にしようかなー

コヤマン：皆さんが来るまで、差し障りの無い程度の質問をしまーす

第3バイオリン：はい、なんでもどうぞ。

コヤマン：ではまず、「いいんちょやってみて、一番大変だったことはなんですか？」

第3バイオリン：うーむ、私の場合、他のメンバーやアドバイザーが年上の方ばかりなので、最初は遠慮してしまって、**なかなか「こういう方向でいきます！」**と言えなかったことですね。

コヤマン：なるほどー

ココでばんちゃん、satomiogさん、softestさん JOIN!

軽い挨拶のあと、さっきのインタビューについて共有しました。

第3バイオリン：ええ。JaSST を新潟でやるぞー、と決めて、しばらく何も進展がない時期がありまして

コヤマン：ふむふむ

第3バイオリン：私は「あれ、何も進まないぞ」と思いつつ、なかなか言い出せなくてそれでしばらくして、にしさんや他の方々が「何も決まってないじゃないか！早く進めないよ！」って。

satomiog：言い出せないお気持ちよくわかります(><)特に社外の方々と手弁当で何かをやるときって、そうなっちゃいますよね。

コヤマン：satomiogさんも北海道のとき、同じようなカンジでしたか？セッションの際には、さんちゃんのように遠慮しちやいました？

satomiog：発表内容が1週間前まで固まらなかった次第で。。

コヤマン：ww

satomiog：1週間前から急に緊張してきて、当日は緊張しすぎて遠慮どころではなく。。

第3バイオリン：そんな裏話があったんですね。

コヤマン：さんちゃんは緊張しました？JaSST'11 Niigata.

softest：絶対してたと思うー

第3バイオリン：ええ、**当日朝の打ち合わせのときから緊張はじめましたね。**

コヤマン：近ッw

第3バイオリン：コラムにも書いていた通り、挨拶の練習もしてなかったの「何言おうか」って(ダメじゃん)

コヤマン：ww先輩に突っ込まれてましたねw

第3バイオリン：ええ、後できつく叱られましたw

satomiog：すごいですね。私は入念に準備しないとダメなタイプです。。

第3バイオリン：いやー、たどたどしい挨拶でした。何で練習せずに何とかかなと思ってしまったのか・・・

コヤマン：ww WACATE のセッションだとさんちゃんはすごく几帳面！ってカンジなので意外でしたw

softest: 緊張知らずの小山さんはどんなふうリラックスしてるんですか？

コヤマン: 緊張しますよwww僕はもちろん練習とかしますがある程度感覚でイケそうだなーって思ったら、「なんとかなるやろー」ってタイプですw

第3バイオリン: その判断が難しいところですよ

コヤマン: softestさんは、どうですか？

softest: 僕はー、練習しないとだらだらと長くしゃべっちゃうタイプです。

コヤマン: 緊張は？？

softest: しますよー。いつも汗かいています。

コヤマン: いつも安定した発表しているように見えますw

softest: それは、ゆっくりしゃべってるからかもー。

コヤマン: なるほどー

すぎたさん、dice(ロドリゲス)さんが JOIN!

dice: こんばんは～

ばんばん: JaSST 東京実行委員きたw

すぎた: すぎたです。こんばんは

ばんばん: それもふたりきたwww

コヤマン: すぎたさん、diceさん、名前はそのまま掲載してダイジョブですか？？

dice: 本名でもいいっすよ～

すぎた: 大丈夫ですよ、ひらがなでね

コヤマン: 了解ですw

dice: 芸名でもw

コヤマン: ゲイ名ですかー

dice: マリマヲ

ばんばん: 芸名ってあるんですかあ??>あずまさん

第3バイオリン: (爆笑)

dice: ありますよー

コヤマン: どんなwwww

すぎた: 源氏名じゃなくて

dice: えっ

dice: 今の気分だと

dice: 0f*リグスw

コヤマン: wwwwww

第3バイオリン: 何で!?

dice: すみません、ヲトですw

コヤマン: オーケー、ロドリゲスw

dice: ㄖ、コヤマン

コヤマン: 世界観が壊れてるw

dice: まだ1杯目です

コヤマン: グッド!

コヤマン: ちなみに今日のチャットのテーマはJaSST'11 Niigata やってきたさんちゃんに根掘り葉掘り聞こう!です

dice: お!いいね!寝堀はほりきこうww

softest: ねほりねほり

コヤマン: 皆掘るの好きだなあ

dice: 掘られる方が得意かw

softest: 掘られ、

softest: なんでもないです。

コヤマン: wwwww

dice: ww

softest: そういえば、新潟には9名ほど、関東勢がきていたとか。

dice: 多いw

第3バイオリン: はい、お手伝いの方と、参加者合わせたらそれぐらいいらっちゃってました。

softest: 同じ新幹線で、Aやまさんとrin2_さんが一緒でした。

dice: 成功おめでとございます!(遅

第3バイオリン: ありがとうございます。

softest: ばんちゃんも一緒だったはずが、改札では見かけませんでしたー。

第3バイオリン: 東京の方々が駆けつける様子はTwitterで見えました。

dice: うらやましかったなー

コヤマン: 駆けつける様子を見て、どうでした?

第3バイオリン: 「うわー、みんなこっちに向かっている」と思うと緊張しましたね。

コヤマン: なるほどーで、急に緊張した、とw

softest: いざ、鎌倉ではなく、いざ新潟

第3バイオリン: Twitter 恐るべし。

dice: 良くも悪くもついったーすごいw

コヤマン: スゴイですよね@@;

softest: あれやりましたか?手のひらに人という字を書くやつ。

dice: ww

第3バイオリン: あー、それはやってないです>手のひらに人

コヤマン: 終わるころには、緊張は解けました?

第3バイオリン: はい、何とか。

コヤマン: いやー、涙のお礼のあいさつ、良かったですよー^^

dice: まじすか!

コヤマン: なんかね、想いが溢れる!みたいなのが伝わってきました^^

softest: そういえば、涙といえばWACATEのいけどんさんも涙>2008年夏

dice: !

第3バイオリン: あ、それは初めて聞きました。

satomio: もらい泣きしそうですね^^;

コヤマン: 僕、さんちゃんのもいけどんさんのものも、軽くもらい泣きましたw

dice: 抱きしめちゃいそうクロージングの実行委員長の長いお辞儀でナケル みんな元気をもらうもんなー

すぎた: 一生懸命やってきたからだよ

コヤマン: ですね^^

第3バイオリン: ええ、それに対して、あれだけの人が応えてくたさったのが嬉しかったですね。もう本当に「人が集まらなかつたらどうしよう…」って、それが一番の心配でしたから。

softest: 僕も心配してました。

コヤマン: 最終的には、50名超えてましたっけ?

第3バイオリン: 参加者は、50名ですね。

コヤマン: おおー

softest: 50名を集めるって、どれほど大変か!

コヤマン: うんうん

dice: 新潟も寒いけどアツいですねー

コヤマン: 新潟、発表もアツかったですよ!

softest: 雪が解けてましたもん

dice: ww

コヤマン: 雪wwww

第3バイオリン: ええ、2月にほとんど溶けてしまいましたからね。ああいうのは珍しいんですよ。(で、3月にまた積もるって…)

コヤマン: w

コヤマン: 実行いいんちょをやってみてさんちゃんが一番嬉しかったことってなんですか?

第3バイオリン: やっぱり、新潟のエンジニアの方の熱い気持ちを直接感じる事ができたことですね。新潟の人って、県民性なのか、あまり自分から主張しない人が多いので。(たまたま、私の周りの人がそうなのかもしれないんですが)

第3バイオリン: でも、内側に熱い気持ちを秘めているんだな、と。

コヤマン: うんうん^^

すぎた: 新潟で50人集まったというこでは、潜在的には 内側に熱い気持ちを秘めている人が いることを証明したと思うよ

第3バイオリン: 「JaSST'11 Niigata」がそれを引き出すきっかけになれたとしたら、嬉しいですね。

softest: そういえば、勉強会 in 新潟の話もでてるんじゃないですか？

第3バイオリン: ええ、そうですね。その後で「勉強会やりたい」という方もいらっちゃって、それで、**今月23日にキックオフします!**

コヤマン: おおー

dice: おお!

コヤマン: いい間隔ですね^^

すぎた: すばらしい!

第3バイオリン: まずは、顔合わせと、今後どうやって進めていくか、ご意見をうかがいたいなーと。

satomiog: 何人くらい参加者いるんですか？

第3バイオリン: いまのところ、**私も含めて10名ほど参加希望者がいますね。**

satomiog: すごいですねー! 10人も!

コヤマン: すごい@@

わっしーさん JOIN!

意外に知られていないロドリゲスはかわいい系という話から皆さんが初めて参加したJaSSTの話になりました。

コヤマン: しかし**さんちゃん**は10Hokkaidoからだから、1年ちょっとで**実行委員長**なんだねー

わっしー: すごいなー

第3バイオリン: そうなんですよー、どうしてこうなった(笑)

dice: (これ面白いかも>さんちゃん <http://www.slideshare.net/ujtommy/ss-7104541>)

dice: WACATE1回しかいってない(汗)

コヤマン: wwしかも途中で抜けてた気がw

dice: **そうそう、澤田が復活します>わ**かて今新婚旅行でモルディブ

コヤマン: モルディブ!

わっしー: はーウヤマシ

コヤマン: さわちよと softest さんでメガネイケメン受付が名物なので

dice: おおw

コヤマン: さわちよの復活は助かります!

dice: あの眉毛がたまらん!

コヤマン: wwww

softest: メガネンジャー復活だ

第3バイオリン: 澤田さんは、お会いしたことあったかな…?(私2009冬が初参加です)

softest: WACATEの受付係として

dice: うう…わかりません…

コヤマン: Loveドッキュンを見てたら、見てるはずw

第3バイオリン: あー、じゃ見てないです。

すぎた: あれルーツだよ

dice: **かわいいのでよろしくです m()m**

コヤマン: モルディブ・ハネムーン帰りなら色々頑張ってもらいたいですねw

dice: はい、是非とも!

ばんばん: **そうなのよ。澤田さん、夏は目立たそう計画たてなきやねえ…**

dice: ww

hiroiseさん、rin2_さん JOIN!

dice: お

コヤマン: テライケメンボイスがJoin!ですwrin2さんもJoin!

dice: ㄉㄞㄉㄞ! こんばんは~

hiroise: こんばんは。仕事場から急行してきました><ちなみにリアルはイケメンではありません><

dice: またまたあ

rin2_: こんな時間になってしまいました…(^^):::

コヤマン: 今日のテーマはJaSST'11 Niigataですよ! ってイケメン話ばかりですがw

dice: Niigata!

ばんばん: **ええそろそろ内容のほうに移るのがよい気が…w ww**

dice: ですね!

ばんばん: い、いちおうこれ、記事なんで^^:::

コヤマン: 実行いいんちょを1年たらずでやりとげたさんちゃんに聞きたいこと! どなたかあります?

すぎた: (勉強会への) 思いが、動き出したのはいつ?

第3バイオリン: やっぱ、「JaSST'11 Niigata」の情報交換会で、勉強会やるなら参加したい、という声を聞いてからですね。年に1回JaSSTやって、だけではなくて、**定期的に勉強会やコミュニティ活動が続けられるように、**

第3バイオリン: JaSSTがそのきっかけになれるように、というねらいは当初からありました。

dice: なるほどー

ばんばん: **実際仲間も増えましたね^^会場探しとかも協力してくださいさってるし♪**

第3バイオリン: ええ、本当にありがたいお話です。私ひとりが、必要以上に気負うことはないのかなと思います。

コヤマン: うんうん^^ **仲間重要!**

dice: ですね~

コヤマン: でもほんと、最初から地域に貢献! というのがあるのが凄いですよね。僕はなんか最近、他の地域に負けてらんない! とは思いますけどw

softest: **東京負けてられない!**

dice: **負けてられない!**

第3バイオリン: 「今年新潟が熱い」と言わせたいです(笑)

すぎた: そうですね、希望しても **自分から動かれたのはすごいことです。**

コヤマン: わっしーさんや satomiog さんは、やっぱり地域に貢献! という気持ちがあります?

わっしー: うーんあんまり地域に貢献するぞ! というのはなくて **みんなが楽しくなったらしいな**的なそんなふわ~とした感じですよ

コヤマン: いやいやそれも凄いですよ。皆って広いもの^^

rin2_: **楽しい、というのは重要ですね^^**

わっしー: 九州ってほかの地域に比べてテストが好き! って言う人が少ない気がします

satomiog: そうですね。。北海道は、今は地域貢献以前に、メンバーを少し増やしたいというのが大きいです。。

すぎた: うん、わかる **日本中が熱くなって! みんなで切磋琢磨していきたいです。**

hiroise: でも地域ってやっぱり人の数的な面でハードル高く大変ですよ。東京はチートすぎる

第3バイオリン: 新潟の場合、会社を超えた「横のつながり」みたいなのがほとんどないですからね。

第3バイオリン: 私自身も、自分の会社のこと以外はほとんど知らないですし。

ばんばん: 地域って意識しなくてもいいと思う。「みんなが」っていうのがいいですね。オンラインで勉強会だってできる時代なんじゃないかな。今は。

dice: ですね〜

コヤマン: うんうん

わっしー: オンライン勉強会! いい!

satomiog: 会社を超えたつながりって、いいですよ! オンライン、楽しそう!

コヤマン: 日本中にテスト好きを増やしたいですね^^

第3バイオリン: そうそう、テスト好きを増やしたいです。

わっしー: 設計/開発がITっていう雰囲気をごち願したい

コヤマン: アツイww

第3バイオリン: おおっ!

コヤマン: 結構日本ではありがちなアレですね対象が複雑になってくると、より一層重要になると思うんですよね。テスト

dice: テストは想像力も必要ですよ

ばんばん: オンラインだとオフよりしきいが下がったりしないかなあ、いきなりオフだと初対面のときは勇気がいりそうだし。オンラインで交流することでオフで会いやすくなって、各地でオフも盛り上がりたりして、地域毎の取り組みを紹介しあえるようになったらいいですね。

コヤマン: うんうん

ばんばん: オンラインとオフラインをうまく利用したいですね

コヤマン: わっしーさんはオンラインが初めてでしたーあんまり違和感がなく^^

わっしー: わっしのほうが最初はいいです、人見知りなんで

コヤマン: うんうん^^

第3バイオリン: 確かに、Twitterとかであらかじめお話しておく、実際に会ったときにも話しやすいですよ。

コヤマン: そーいや、さんちゃんも初めはコラムのコメント欄だったw

第3バイオリン: そういえば、コラムにコメントくださったんですね。WACATEに参加しようと思いつつ、でも大丈夫かなーと思っていましたが、コヤマンさんのコメントで腹をくくりました。

コヤマン: ニヤリw

第3バイオリン: だってー、実行委員の人からじきじきにコメントもらったら、行くしかないじゃないですかw

ばんばん: WeekendTesterもオンラインだよ。そういえば。

コヤマン: うんうん! WeekendTester イイネ!

そしてわっしーさんの社内勉強会の話からモチベーションの話になり、オフショアの話~日本の技術の話~清水吉男さんの話と話題は移り変わり、
JaSST'11 Niigata のにしさんの発表の話に…。

ばんばん: **そもそもコストの減らし方が間違っているだけだと思います。そこで高カイズン戦略ですよ**

わっしー: 高カイズン戦略・・新潟が遠い・・

ばんばん: (テーマはJaSST新潟なんだってばww)

コヤマン: おお、JaSST'11 Niigata のにしさんの講演! うん。あの講演ホント良かった! と同時にとても耳が痛かったw

rin2_: うんうん。。

すぎた: Tweetで、行けなかったこと悔やんだ

ばんばん: **コストや納期だけ改善しようとするんじゃなくて、品質を上げることでコストを下げ納期を早めましょう、と言う話ですわ**

コヤマン: そうそう。それを支えるのは、「フォロワーシップ」っていうね^^

わっしー: チームかってことですか?

rin2_: フォロワーシップの話、よかったですね。。

コヤマン: 貢献力と提案かって説明してましたね

dice: **気持ちよく楽しくできないなら、良い仕事なんてできるわけない**

コヤマン: うんうん

すぎた: 同意

コヤマン: 相手のためにやり、かつ自分達のためにもなる、というこれって凄く楽しいよねー

第3バイオリン: フォロワーシップの話聞いて、私も仕事するときにいろいろ考えるようになりましたね。

ばんばん: 他工程に思いやりをもつ、他工程への配慮を業務に「埋め込む」。たとえば、レビューしやすいようにドキュメントを書く、とか。

dice: **マネジメントですなあ**

コヤマン: そうそう僕も、マネジメントだな、と思っていました

第3バイオリン: 「この指示の本当の意味は?」と。考えるだけで実行できるかどうかって言われると、まあ、その…

dice: **manage のはじめは man ありきって習った記憶**

コヤマン: おおー

わっしー: ああ、なるほどー!

dice: 大事ですね

コヤマン: メールの書き方1つでフォロワーシップが見れますよね

dice: うんうん 一日の大半がメール書きかもww

コヤマン: フォロワーシップって、にしさんは講演では「部下力」って言ったんですが僕はマネジメント力だなあって聞いてました。で、それは日本的な品質に通じていて

dice: ふむふむ

コヤマン: 組織が提供する製品・サービスが長期的に幅広い顧客に満足を与える。それを実現するための武器だ、と。品質は技術力そのものであり、組織の持続的な強みの源泉なんですよ、と。

ばんばん: **「おもいやり」って、日本らしいですよ。でもって、新潟の事例発表も、それが大事だっていうことが伝わる内容だったと思うんです。**

コヤマン: うんうん

第3バイオリン: WACATE で大西さんがおっしゃっていたように、まったく新しいテストが必要になるかもしれないわけですね。

hiroise: **そういうのを大規模でやろうとすると、やっぱりマネジメントや上流工程の工夫が必要になってきそう**

ここでマヨネーズ大王さん JOIN!

コヤマン: マヨネーズな方を追加しますw

hiroise: あとテスト・品質保証の壁が、製品のクリティカルな壁になることがありますよね。例えば車のエンジンとかは、新しい技術やアイデアがどんどん出てくるけど、きちんと動くかどうか検証するのが大変難しいから、積極的に取り入れられずに、保守的な進歩にとどまっているんですよ。

JaSST での基調講演で人工知能をどうテストするかなんて話が出てきましたが、そういう、検証の困難さをどう打ち破るかというのは、結構大事なハードルになってくると思います

ばんばん: **もっと早い段階からテストや品質保証の立場の人も関わってみんなで考えよう! って取り組みができれば、変わってくるかなあ。アイデアが実現しやすくなったりするかなあ? するんじゃないかなあ?**

dice: 少なくとも現状よりよくなりそう

コヤマン: うーん、たぶん、チャレンジアブルな製品の品質の品質定義を分けた方がいいんだよね。でも、早い段階からテストや品質保証の人間を入れると、プレーキにもなりかねないってこともありますよね

ばんばん: でも、現場で問題抱えていたり改善したいという思いをお持ちのみなさんがヒントを得られたら、てそこは伝えられてましたものね♪

第3バイオリン: ええ、まあ、**そうかー、そういうことを挨拶で伝えるべきだったんだな。**

コヤマン: うんw今言ったような想いを、ドリームなんちゃらな人みたいなカンジに伝えられると完璧ですよ

ばんばん: どリーむなんちゃらって、ドリームジャンボ宝くじみたいですよwwww

コヤマン: wwwwwwwwwでもホント、テーマに沿った発表で、とても良かったです

ばんばん: ええ、**発表内容に統一感があったところは聴きやすかったです。内容を理解しやすかったのではないかと。**

第3バイオリン: ええ、偶然ですが、**事例発表2件とも、にしさんの基調講演の内容をふまえたかたちになっていましたからね。**

コヤマン: あ。もうこんな時間 [01:01:29]なのね^^ ;

第3バイオリン: おおっ。

コヤマン: さてさて今日はたくさんさんちゃんに話っていた気がします

第3バイオリン: いやいや…たいしたお話はしていませんが。

コヤマン: **JaSST'11Niigata**のレポートは、**Magazine**と**さんちゃんのコラム**でw

rin2: Magazineに期待ですよ(^)

第3バイオリン: 本当に、私はたいしたことしてないですよ。三浦さんとか、にしさんとか、他の人に助けてもらってばかりでしたもの。

コヤマン: いやいや、**実行委員長として進めたことには変わりはないし、さんちゃんが「やります」って言わなければ、実現しなかったですよ。**ホント、凄いことです!

わっしー: **そうだそうだ! 眩しいです**

ばんばん: **女性の実行委員長って初ですよ?**

コヤマン: そそ^^

わっしー: **カッコイイ!**

softest: **パイオニア!**

ばんばん: そういう点でも大きいと思うんです。

コヤマン: うん。大きな意味があります

hiroise: **一番星!**

softest: **スター!**

第3バイオリン: はあ、ありがとうございます(照)

コヤマン: **働く女性エンジニアにとって、とても大きなことですよ**

わっしー: ですよ

satomiog: その行動力、大事ですよ!

softest: WACATE参加者というのも個人的には嬉しい^^

コヤマン: 嬉しいですよ^^

ココでドリームなんちゃらさん JOIN!w

コヤマン: 激励に駆けつけてくれましたw

Dreamstate: 激励してくれるの?>ALL (違)

第3バイオリン: こんばんは。

コヤマン: いや、さんちゃんとこれからの新潟を激励してくださいw

Dreamstate: (さんちゃん、JaSST新潟お疲れさまでしたー)

Dreamstate: あ。かぶった。ん?さんちゃんを激励?

コヤマン: ですよ^^

Dreamstate: (みなさん、こんばんわ。なんか締めるそうなので、「締めさせないぞ?」と参戦しました。(嘘)

コヤマン: wwwwww

第3バイオリン: うわーwww

Dreamstate: えっとね。私の言葉で説明すると、**JaSST新潟って、近隣県、近隣企業同士が、横につながっていない/地域の連動がやっと始まったかんじ**なの。

第3バイオリン: そうなんです。

コヤマン: うんうん

Dreamstate: そのきっかけをつくったのが今回のJaSST新潟なの。

第3バイオリン: 勉強会したいっていうのも、そのつながりをさらに強くしたい、そして広げていきたいっていうねらいがあるんです。

Dreamstate: これを結びつけた功績は凄いおおきいんだと思うの。(1~2年したら、「地元の名士」っていわれるぞ>さんちゃん)

うん。**広げて、交流して、そして、独自色を出していったり、「ならでは」な技術を生み出したり。あと、「有名人」を排出したり**だね。(もう、さんちゃん自身が全国区なので、こんどはさんちゃんが全国に連れ出す人を探すのもいいかもね。

Dreamstate: もうひとつ。技術が「育つ」環境が整っているの。

コヤマン: fm

Dreamstate: (実は、自分たちの位置を確認すること。。。っていうのが、一番目の「技術を生み出す文化」の必要条件なんじゃないかな。って思うのよ。)

コヤマン: なるほど

Dreamstate: うん。これは、北海道の人たちに聞いたんだけど、(Aだちさんとか、Hんださんとかね。<JaSST北海道実行委員)

えっと、**北海道の人たちって、自分たちの立ち位置を見つけて、「これじゃいかん!」って問題意識を持ってからが凄い早かった**よね。<わずか1~2年。

コヤマン: ですね。凄い勢いでした

Dreamstate: **ある意味で、今の位置を見つける十妙な焦りを感じるあたりが、出発点になるんじゃないかと思う。**(まよくんとか、名古屋の人たちも、「こんなじゃいかん!」ってよく口癖みたい

に言うシーンをよく聞く。<特に品質関連の問題意識)

softest: 問題意識をどう持たせるか、大事だなあ。

Dreamstate: (問題意識は凄い大事なんだよね。人の気質もあるし、その土地の伝統なんか制約になったり。いろいろ>Softestさん)

マヨネーズ大王: お互い切磋琢磨しあえるといいですよ。でも、それ以上にみんな「おもしろいからやる」って思考が強いですよ

特に名古屋の開発コミュニティは。。。ますやってみるか!とか。

Dreamstate: (そう!何かがある!って感じたから、チャレンジできたんじゃないかな。<今回のJaSST新潟開催>実行委員として)で、**焦ったら「どうしたい?」の前に、「どこ行きたい?」って考えるのがいいの。方向性を考えるのがいい。一番を目指したいとか、テスト王国を作る!とか、そういうのでいい。**

コヤマン: **地図とコンパス、ですね**

Dreamstate: (そうそう。<地図とコンパス>で、自然と、「差別化しなきゃ!」ってのが次に生まれる。

コヤマン: **その土壌を、さんちゃんが作ったんですね**

Dreamstate: もう一つ、「**技術が生まれるのに必要な土壌/文化**」があります。これはここに参加している全員/全国に共通するんだけど、**「Respect & Influence」「尊敬と影響」**です。

Dreamstate: 地域のコミュニティー内で、ライバルみたいなものも含めて、お互いを尊重し合う文化があるところには、ちゃんとJaSSTが成立してるよね。そして、お互いが影響を与え合っている。(理想的な技術コミュニティーだと思ってるよ。)

Dreamstate: **みんな地域の仲間信頼してるでしょ?**

コヤマン: はい

hiroise: はい

Dreamstate: **すっげーいいことだと思うわ。**

マヨネーズ大王: 確かに。

Dreamstate: で、そういういいコミュニティーや「輪」の中に、自分が身を置いていると、「あの人かっちょええなあー」と、「俺がみんなにできることはなんじゃろー」が生まれる。(これが、差別化の「芽」になります。他人と違う、俺は俺である！っていう気持ちや自分なりの工夫を始めるの。

Dreamstate: No1 になりたいってガキのころは思うけど、大人になってくると OnlyOne になりたいくる。で、OnlyOne になりたいな。。。ってしばらくおもっていると、自然に No1 になって、さらに「もっとみんなで考えたい」って思ったりする。<これが年を食うことそのものかもしれない。

コヤマン: fm

Dreamstate: 必ずしも全てのコミュニティーが同じなわけではないけど、**コミュニティーを活性化させることとは、結局は個人を活性化させることなの。**<人なくしてコミュニティーは成立しないから。会社ではないので、みんなハッピーでありたいし、みんな楽しんでほしいよね。

コヤマン: ^^

Dreamstate: その「みんなで楽しむ」感覚ってのは、意外と作るの難しいんだよ？

コヤマン: そう思います。

Dreamstate: (勉強会っていう形式にこだわったりするよりも、好きなことみんなで考えたり、語ったりが勉強だし、形式的な知識を1つ持って帰るよりも、複数人とつながって「価値観共有する」ことの方が大切だったりする。(形式知は、書籍として購入することも、有料で買うこともできるからね) **人とのつながりは買えません。**

コヤマン: 確かに。

この後はしばらくコミュニティーの話とファシリテートの話が続ききました。

softestさん、わっしーさんの勉強会の話...

マーズローの欲求(自己実現理論)の話。お話はずきません。

Dreamstate: 「何となく伝わる」って共感してくれる人が多いかもしれない！って時に、お話しして、「うん。それわかる」って言われた時、「通じたかんじ」がしてうれしくなったことない？>わっしーさん

わっしー: あります！

Dreamstate: さっきちょっとお話しした、「尊敬と影響」って、そういうことを生み出すの。誰かの発言を聞いて、「それいいねー！」「あるある！」「なんとなくわかるわあー」って言われる場があったら、多くの個人はその場に所属したいと思うよ。<自然な心理なの。ばんちゃんの場合なんか、「自省」といって、自己の内部で議論/考えてしまって完結できなかった場合は意見を言いにくい。。。っていう心理だね。

ばんばん: いや、単に時間的な話で...

Dreamstate: (うははは。置いてかれたかんじかな？(笑))

ばんばん: 私が結論を出すのは翌日とかそういうレベルですね(爆)

Dreamstate: (どう？この辺りの議論も、新潟勉強会発足のときにすべきファシリテーターの行動として、参考になるんじゃないかな。<よく聞くこと=場を形成すること) **場を形成することってのは、意外と「会話量」や、「同意」の量で決まる気がするなあ。。。)**

satomiog: あ、私そうです。会社で話が通じる人がいないから、いつも TEF 道で癒されているカンジです

Dreamstate: WACATE でも、それできてるからみんなリピーターになる気がするけど？>こやまん

コヤマン: WACATE は、ディスカッションをメインに置いているのが良いと思います

マヨネーズ大王: たしかに WACATE ではグループを作って自然とディスカッションが弾みますね。周りがうまくフォローしたり、まずは肯定的に話を聞くし。

第3バイオリン: ええ、私も、勉強会キックオフでは、まず参加者の皆さんのご意見を聞きたいと思っています。

Dreamstate: (会社で話が通じる人いないって！(爆笑中))>TEF 道でいやされるのかあ。。。北海道には、日本一話を聞くのが上手な人がいるからねえ。。。その人の影響かもね。>塾長

satomiog: そうかも！

Dreamstate: 「良い聞き手のいる場には、良い議論が生まれる」ってのは結構参考になる意見だね。

Dreamstate: それから、さっきの Softest さんの言っていた「はずかしいかも！」って心理が働いているのが、議論の阻害要因になったりするので、上手な質問の投げかけが大事かもね。

マヨネーズ大王: 確かに聞くって大事ですよ。うなずくだけでも全然違いますし。顔を見て話す、聞く、表情を見る。。。)

Dreamstate: うん。「自分の意見/主張」って自分だけの意見じゃなきゃいけないわけじゃないし。>まよくん。

マヨネーズ大王: いいね！と言いつけようようにしたいですね。

Dreamstate: (ちなみに、私は、こういう「議論活性化の技」みたいなのって、レビュー専門家としての会議の場で身につけたよ。) いっつもくろうするポイントの一つだもん。

コヤマン: なるほど。。

Dreamstate: 議論が止まった時のネタ帳とか真剣に書いてた時期があった。(笑)

コヤマン: W ファシリテーション、ですね

Dreamstate: うん。あとね。。**ファシリテーターとしての練習としては、「ワークフロー」ならぬ、「ディスカッションフロー」ってのを書いてた。**

Dreamstate: フローチャートみたいにして、意見が分かれるところは分岐して、いろんな意見が樹形図みたいになる場合もあるし、一本の細長いフローになることもあるし、

コヤマン: そこは体系的に考えたことなかった。。

Dreamstate: とにかく、全員の発言を、フローチャート状に書き留めて、流れを記録したことがあったなあ。。。)

Dreamstate: これは強烈に面白い。「なんで議論が発散したか」「けんかになった理由」とか、逆に「もりあがったポイント」とかが明確になる。

コヤマン: なるほど。

Dreamstate: (書きながらしゃべるのが辛いけどね。)

マヨネーズ大王: ほう。。。参考になりますが、大変そうな作業だ W

Dreamstate: 短時間で結論を導出する時には向かないけど、場を育てるのには必ず必要。

マヨネーズ大王: ファシリテーションは勉強したい項目の一つですね。。

第3バイオリン: 私も勉強したいです。

Dreamstate: 人が何を望んで場に参加してくるか。。。の「What」の方が大事なので、それを理解するためだったら、**技法適用より、率直な意見交換が一番よかったです。**(下手な小細工は、した方がいいかしない方がいいか。。。をよく観察してからね。)

Dreamstate: 一つだけコツを。新潟に関しては、会を通じて「これは何かしなくては！」って想いが凄く強くなったと思うの。

Dreamstate: なので、その「何かしなくては！」ってのを、あまり理論的に追求しないところから始めたらいいですよ。

Dreamstate: 「なぜなぜ？」って繰り返すと、人は意見を言いにくくなる。(よっぽど業務で利害がない限り、強い主張をしない民族なので<日本人=ディベート慣れしてない)

Dreamstate: なので、「何かしなくては！」っていう想いを最大限に尊重。で、結論でなくても、(さっきの北の塾長みたいに)「いやされるねー」とか「いっぱいしゃべったねー」とかからのスタートでいいと思います。コツは「焦らずゆっくりと」で、アツい想い語りを楽しんで。いじよ。細川からの励ましでした。
第3バイオリン: はい、ありがとうございます。

そしてさんちゃんが抱えている「勉強会をやるかしてるとして…」という漠然とした不安を抱えていることに対して皆さんが自分のところの話などをしていました。
そこでDreamstateさんからアドバイスが…。

Dreamstate: こやまんに質問。

コヤマン: はい

Dreamstate: WACATEの中心人物としてこやまはうごいているけど、

コヤマン: いえいえ

Dreamstate: 自分が思うより、自分のこと見てないよね? <参加者は。つまり、司会者/中心者って、意外と見られていないの。

コヤマン: ですw

Dreamstate: 場の方が大事であって、司会者/中心人物なんざ意外と苦勞の割に評価されていない。

Dreamstate: で、場があったまってくると、「中心人物」の偉大さに気づいて、やれ、中心人物は海パンはく凄いやつだの、次はフンドシしめる偉大なやつだの言い始める。

コヤマン: w

Dreamstate: 献身的であるべきとは思いますが、楽しい場をつくら! って自分も思えないと。(期待、プレッシャーから不安を感じると、行動がちぎこまっちゃうよ?) (大胆に、かつ繊細に。あんまり深く考えないのがコツです)

Dreamstate: 例えば、勉強会の最初の議論は、「勉強会に誰を呼ぶ?」って、全然勉強とは関係なくてもいいわけです。(NさんもAやまさんも、みんな呼んだら来てくれるよ。きっと)

コヤマン: うんうん^^

Dreamstate: 面白いことってなーに? とか、困ってる問題ってなーにでもいいし。

コヤマン: 外部の人を呼ぶのは、実は北海道でもやりましたね
Dreamstate: (そうそう。外部の人をよぶのはありますよ。)

コヤマン: どうか、さんちゃん。少しは参考になったかなあ

第3バイオリン: ああ、すみません。最後のほうに変な話をしています。

コヤマン: いえいえ

Dreamstate: (問題ないよ)で、最初の1回目が終わったら、また教えてよ。(杞憂だったことに驚くと思うよ。)

コヤマン: うんw

第3バイオリン: ええ、SNSの日記か、コラムに書いてみようと思います。

アツい話がつづき、ふと時計に気付いたら…

マヨネーズ大王: 3時ですか。。。

Dreamstate: (荒らすだけあらしたね。。。みなさんすいませんでした。(苦笑))

第3バイオリン: いえいえ、アドバイスいただけて感謝しています。

マヨネーズ大王: 頑張ってください!

わっしー: 応援してます

第3バイオリン: はい、なんか、いい方向にいくような気がしてきました。

ばんばん: その場の盛り上がりだけで終わらなければ大丈夫ですよ。きっと工夫上手な方が多いので大丈夫かなあなんて思います。

Dreamstate: (うん。普通にいい方向にいくよ)

第3バイオリン: 参加者の皆さんの話をしっかり聞きます。そこから、始めます。

とまゑさんと週末金曜の夜3時まで! w

不安をある程度払しょくできた?新潟の勉強会に期待!ですわ。

きっとコラムにも書いてくれるに違いありません!

JaSST' 11 Niigata を経て新潟がどう変わるのか?

どう新潟が熱くなるのか。

来年のJaSST' 12 Niigata が今から楽しみです。

今回のチャットでももしかしたら勉強会の話が聞けるかも知れませんね!

次の話題は一体どうなるかわかりませんが、きっと盛り上がること間違いナシ!

WACATEに来た事が無くても、どんどんチャットに参加いただければと思います!

■参加方法と次回予告だよ

□チャットに関する要件は以下の通りです♪

・Skypeのチャット機能を利用します(ボイス通信は使いません!)

・グループに参加していただきますので、コンタクトリストにない人が含まれるチャットに参加できるように設定してください

・チャットに表示される名前を、Magazineに掲載してよいハンドルネームに設定してください

次回開催は・・・

4/16(土) 21:00~ chat 開始!

20:55にはパジャマに着替えてskype前集合♪

テストのお話しましょう♪

■参加申し込みは以下の方法で!

=====

WACATE-Magazine 編集部のチャット窓口

(magazine-chat@wacate.jp)に

「てすバナ参加希望」という件名で

以下の情報を添えてメールしてください。

・名前

・Skype名(アカウント名もしくは登録アドレス)

・チャットで話りたいこと

=====

皆さんのお申し込みをお待ちしております☆

今回のチャットルームオーナー: コヤマン

池田暁の

ミュージカルに恋して。

[第二十五幕] 2011 年明けましておめでとうございます！

■近況ですが・・・

これを書いているのはすでに3月入ってしまったのですが、外は大吹雪です。冬將軍の最後の一撃といったところでしょうけど、風邪気味なのがずっと続いているので勘弁してほしいなあ。というか、先日インフルでしたしね。身体を大切にしたいところです。皆さんも3月は寒の戻りがまだまだ続きそうですから、くれぐれもご自愛くださいね。

■ひさびさの勉強会

この半年くらいほとんど勉強会の類に参加できません。最近業務がはちゃめちな状況であることもあって、なかなか外に出られないので、せっかくお誘いいただいてもお断りするしかない状況なのです。もっとも時間の作り方が下手なだけなのですが、とにかく足が遠のいていてますいなあと感じています。

しかし、この3月上旬は久々に外の勉強会に参加することができて、刺激をうけることができました。簡単に紹介したいと思います。

■デブサミ 2011

参加といってもセッションを聞いたりというわけではなく、所属するTDD研究会がコミュニティブースをだしていたのでそのお手伝いでした。でも、私がペアプロしていたわけでもないのに、半ば陣中見舞いになってしまいました。(^-^;

合間にできた設計者の方々との雑談は非常に楽しかったです。テストや品質をやっていると、どうしても設計の話題から遠くなってしまいますので一つ一つが新鮮で、また自分が設計にいた頃を思い出して少し興奮してみたり。途中F#の話なんかも聞けてよかったですね。良いテストを行うためには、設計を深く知っておく必要があります。宝の山でした。

■JasST' 11 Tokyo 振り返り

Qooh0さんとkyuuminさんによる企画の勉強会で、お声がけいただきました。丁度そこだけ空いていたのででられたのですが、当日は非常にメンバが豪華で、主席できてよかったなあと思いました。また、参加者のバックグラウンドも様々でしたので、いろんな角度かの話があり、たくさんの気づきを得ることができました。

■ソフトウェア品質保証部長の会

これは日科技連の活動の一つで、その名のとおりソフトウェア品質保証部長しか参加できない会です。基本月一度の例会での議論を通してまた、部長同士のネットワーク作りに生かしていただいています。私はというと、規格メンバ、つまりスタッフ側として参加させていただいていますが、企画やお世話を

通して勉強させていただいています。職位でいえば、二つも三つも上の方々の議論を聞ける機会はなかなかありません。

そんな部長の会なのですが、金曜日と土曜日の二日間箱根の小涌園にて合宿が行われました。これまで欠席が続いていたので、これだけはなんとしてもという気持ちで参加。個人的に、部長の会は10年は続けるべきと考えているので、そのあたりを企画委員会では提案。少しずつ取り組んでいくことになりました。とても寒かったですが、非常に身のある二日間でもありました。



<合宿後 大涌谷でパチリ>

* * *

■届かなかったラブレターコンサート

久しぶりに劇場へ！ということで、ミュージカルではないですが、届かなかったラブレターコンサートに出かけてきました。会場であるオーチャードホールはKUMIKOさんの紅白出場の影響もあるのか、大入りでした。最後には紅白の衣装での歌唱もあり、お客さんも喜んでいました。

このコンサートは届かなかった or 届かないラブレターの朗読と歌で構成されます。井上&KUMIKOによる歌唱はさすがの一言。曲も染み入る曲から明るい曲までバラエティに富んだ構成で、全然飽きませんでした。二年前の第一回目は眠くて眠くてたまりませんでしたので、随分楽になりました。(^-^; ですが、ある手紙の朗読はぼろぼろ泣いてしまったりと、終わってみれば結構体力を使っていたようです。心を大きく動かされるので、知らず知らずに疲れているのでしょうか。そのせいか、帰り道はつつい食べ過ぎてしまいました。でも、感情的にも心情的にも大きな満足感に包まれた一日でした。

* * *

■終わりに

3月はシアタークリエにて上演中のウェディングシンガーを2回ほど。年度末ということで時間がなかなか取れないのですが、その他も一つくらいはと考えています。<終>

WACATE-Blog 出張所

■実行委員会やってまんがな。

2月～3月の間にWACATE実行委員会では振り返りや次回テーマについての検討を実施してきて、いくつかの案をコネコネしていました。

そこで、とりあえず日程を決定しました！！
もちろんサイトに掲載しました！

<http://wacate.jp/2011/summer/gaiyo.html>

さらに、現在は…

「メインテーマ」

「クロージング講師」

について、オフライン/オンラインで検討を重ねている状況です。

「メインテーマ」はほぼ形になってきており、
テーマに沿った形で

「クロージング講師」の方にスケジュールを確認しているところです。

ふっふっふ。

今回も楽しみながらタメになるテーマを
実行委員一同で作成しております！

実行委員からの発表をお待ちくださいませ^^

※基本的にはサイトをチェック！というカンジ
ですがw

メインテーマについては

「今回は何をもち帰ってもらいたいのか」

「何が楽しいのか」

「何をすれば実行委員が楽しめるのか」

といった事を考えながら、熱く話しをしながら少
しずつ少しずつまとめていきます。

とても難しいですがとても楽しい作業です♪

問題は…副題ですな！（そこかよ

■興味のあるひと募集中。

WACATE 実行委員会では常に新しい風を入れるべく、WACATE、またはWACATE実行委員会に興味を持った方を募集しております！

気になった方は是非、magazine@wacate.jpなどにご連絡をいただければ幸いです。

■次のWACATEに向けての近況

現在の次のWACATEに向けての活動は以下です。

◆実行委員会ネタ

- ・ JaSST' 11 Niigata でメディアスポンサーそてきた！
- ・ 第3回WACATE実行委員会やってきた！
- ・ オンラインでも実行委員会やってるよ！
- ・ WACATE 2011 夏実行委員会発足！
- ・ WACATE 2011 夏実行委員体制の策定！
- ・ WACATE 2011 夏に向けてのテーマを議論中！（8割確定）
- ・ WACATE 2011 夏のクロージング講師候補の方にスケジュールを打診中！

◆WACATE ネタ

- ・ WACATE 2011 夏の開催概要を掲載！
<http://wacate.jp/2011/summer/gaiyo.html>

◆その他活動ネタ

- ・ Software Testing ManiaX 残務処理実施中！

…とこんなカンジです！

書いた人：コヤマン

開運

源太郎のソフトウェアテスト占い

※「ソフトウェアテスト占い」とは…
日本の伝統的な暦で知られる気学(九気性)をもとに、日本古来の統計学とソフトウェアテストで培った時代の統計学を組み合わせ考察された占いである！(笑)

	生まれ年	3月の運勢(3月6日~4月4日)
一白水星	S38/S47/S56/H2	本命星と相性のため 運気が盛り上がり している月です。常に穏やかな心持で 周囲との調和をはか ることが吉となる。 身勝手な行いは将来に災いの種を残す ので、注意すべし！
二黒土星	S37/S46/S55/H1	先月と異なり、今月からは 運気は上向き になる月になるであろう。ただし二黒の特性のひとつである「 遅い 」部分 が できることもあり、はかどらない用件があっても 短気を起こさず気長に過ごすべし！ まもなく峠を越すであろう。
三碧木星	S36/S45/S54/S63	今月は本命星と相剋となり 運気が低迷 するであろう。三碧の「 口 」「 若い 」という部分が悪く出ると、 相手に誠意が伝わらない場合がある ので、もう一度自分を振り返るよう心掛けよ。 安易に相手を責めることなかれ。
四緑木星	S35/S44/S53/S62	本命星と相剋となるが 運気が徐々に上昇 してくるであろう。先月までの 滞っていた状態が続いている が、 時が問題を解決 することもあるであろう。 自身の力だけで強引に解決しようとしても上手くいかない ので、注意すべし。
五黄土星	S34/S43/S52/S61	本命星と相性となり、 今月は始まりの月 となるであろう。 苦労をいとわず事を進めれば、時が掛かりても成就 するであろう。目上の者からの援助もあり、 問題が解決する日も近い であろう。
六白金星	S33/S42/S51/S60	運気は盛運 なれど、 今月のうちに行動 するのが吉なり！ 順調なときこそ次の手を考えよ。 巽宮に会しているので特性を活かし「 縁 」を紡ぐことを心掛けよ。「 風 」の特性が悪く出ると 足元をすくわれる ので 注意すべし！ 滞ってからでは遅いと心得よ。
七赤金星	S32/S41/S50/S59	年盤・月盤ともに本命星となるために、 軽はずみに動く事なかれ。 千里の道も一歩から。一つずつ 確実に積み上げる ことが大切。 功を急いではいけ ない。今月は 立ち止まり、全体を見渡す ことが今後の吉を呼ぶと心得よ！！
八白土星	S31/S40/S49/S58	今月は 運気が上昇 しているので、 自己中心的になりがち なり。 身勝手な行動や放言には注意すべし！ 自重して皆と協力すれば 大事を成し遂げる月 となるであろう。
九紫火星	S30/S39/S48/S57	今月は年盤・月盤ともに 暗剣殺 となるために、 慎重に行動すべし。 兌宮に会し本命星も七赤なので、 柔軟に対応 することが吉なり！！世の中は持ちつ持たれつ。 相手の立場になって考え直す ことで、事は次第に好転するであろう。

月盤 七赤金星

年盤 七赤金星

南			南		
	6	2	4		
東 五黄殺	5	7	9	西 暗剣殺	
	1	3	8		
北			北		

◆今月のチェックポイント！◆

今月は、今年に入って初めての「年盤」と「月盤」が同じ月です。今年是一年の傾向が色濃く出る一年になりますので、皆さんご注意ください。「七赤金星」は、実りの年です！！ただし・・・入ってくるものも出ていくものも大きな年になるでしょう。金星と相性の良い星(土星、水星)の方は、入ってきたからと気を抜かないように！金星と相性の悪い星(木星、火星)の方は、東西の方角に気をつけて堅実にお過ごしください。

★今月のラッキーテストアイテム★

七赤の特性のひとつは、覆い隠す装飾です。全体を包み込む、**テスト計画**を見直そう♪
一歩進んで、マスターテストプランを勉強してみませんか？
IEEE 829-2008 をチェックしよう！！

❁お知らせ❁

4月30日(土)にWACATE-Magazine vol.28 発行します!(たぶん)

4月号はお休みをさせていただきますm(_)_m

来たれ! 投稿戦士!

WACATE-Magazine では“ソフトウェアテストや品質に関する記事”を常に募集中です。
来たれ! 投・稿・戦・士!!!

WACATE-Magazine はボランティアベースで発行されています。したがって原稿料は出ません。※ノーギャラです。
投稿いただいた原稿の掲載可否、掲載時期については編集部で決定させていただきます。
特定の商用ツールやサポートなど営利色が強い原稿は原則として掲載いたしません。
レイアウトなどは全て編集部で行います。また、特に戻り確認などを行いません。
単なる論文は掲載しません。紙面の雰囲気を読んだ、イイ感じな文体や内容をお願いします。
公序良俗に反すると思われるものについても掲載しません。

以上を了解した上で、覚悟完了! の方はWACATE-Magazine 編集部「magazine@wacate.jp」まで、是非ご連絡ください。
折り返し、担当より要綱をご連絡いたします。
楽しい、そして役に立つ紙面にするため、是非ご協力いただければ幸いです♪

☆その他、WACATE-Magazine では以下の情報をお待ちしています☆

- 書籍情報(オススメ書籍情報も可)
 - イベント情報(ソフトウェア/品質/テスト関連)
 - 勉強会情報(ソフトウェア/品質/テスト関連ならなんでも)
 - オフ会情報(ソフトウェア/品質/テスト関連)
 - デザート情報(甘いものならなんでも。イカス! やつで。)
- などなど、お待ちしております♪



来たれ
次世代の
戦士達よ!!!

WACATE実行委員募集中♪

★★★ WACATE 実行委員募集中 ★★★

編集後記

いいんちょ★年度末! 走りきるよっ!
きたー★きつこの号が掲載されている頃には火の玉プロジェクトは終わっている…
はず(;´Д`)
あたべ★スキーの準指導員検定に合格しました! イヤッホウ!
コヤマ★WACATE 2011 夏も楽しくできるようながんばるゾー+
ばいばい★先日横浜から鎌倉まで歩きました。まさに鎌倉遠足だわ♪
あらかみ★今月は「Why to day?」先月に何も無かったので、安心です。。orz

★あくづけ★

2011/03/20(sun)はっころ
WACATE-Magazine へんしゅろ
✉Magazine@wacate.jp
<http://wacate.jp/Magazine/>